

目次

改訂情報

変更年月日	変更内容
2014-12-01	初版
2016-09-01	第2版 仮想化対応に伴う機能見直し

はじめに

本章では、本資料の位置づけと利用するにあたっての注意事項について示します。

ご利用にあたって

対象読者

本資料は、以下の方を対象にしています。

- IM-AccelDB の管理者
- IM-AccelDB の設定作業者
- IM-AccelDB の利用者

IM-AccelDB マニュアルについて

IM-AccelDB マニュアルと他ドキュメントの位置づけを以下に示します。

No	名称	内容
1	IM-AccelDB マニュアル（本資料）	IM-AccelDB GUIの操作手順について示します。
2	IM-AccelDB リリースノート	IM-AccelDB のリリース内容について示します。
3	IM-AccelDB ファーストステップガイド インストール編	IM-AccelDB のインストール手順について示します。
4	IM-AccelDB ファーストステップガイド 操作編	クラスタ起動から停止までの基本動作、およびアクティベーションについて示します。 本資料の ログイン・ログアウト および 運用管理 からの抜粋です。
5	IM-AccelDB ファーストステップガイド 設定変更編	IM-AccelDB のインストール直後に、ネットワーク設定を変更する手順を示します。
6	IM-AccelDB DB操作機能利用マニュアル	IM-AccelDB GUIの機能のうち、DB操作機能について使用手順を示します。
7	IM-AccelDB 稼動情報表示機能利用マニュアル	IM-AccelDB GUIの機能のうち、稼動情報表示機能について使用手順を示します。
8	IM-AccelDB 緊急コンソールマニュアル	緊急コンソール機能の操作手順について示します。

前提条件

次章以降の手順を実施する上で、以下の項目を前提条件としています。

- ファーストステップガイド インストール編に記載された作業が完了していること
- IM-AccelDB 操作端末にブラウザ（InternetExplorer, GoogleChrome推奨）がインストールされていること

また、手順の中で必要に応じて IM-AccelDB 設定情報を参照する場合があります。

商標について

本資料に記載されている会社名、システム名、製品名は、一般に各社の登録商標あるいは商標です。

記述ルールについて

操作対象の記述ルール

本資料において、操作対象となる画面名などは、以下のルールに則って記述します。

No	項目名	説明	例
1	画面名/画面項目	「鉤括弧」で括ります。	「Size」に値を入力します。
2	ユーザーによって値が変わる項目	<山括弧>で括ります。	<仮想マシン作成場所>を設定します。
3	ボタン/メニューリスト/リンク	[角括弧]で括ります。	[Create] ボタンをクリックします。
4	記入/選択	『二重鉤括弧』で括ります。	『swap』を選択する。

注意事項等の記述ルール

本文中の注意事項等に関しては、下記のルールに則って記述します。

**注意**

操作を実施する前に必ずご確認ください。

**コラム**

IM-AccelDB管理者向けの情報です。操作にあたってお困りのときにご確認ください。

本資料で使用している用語

本資料で使用する用語について、以下に示します。

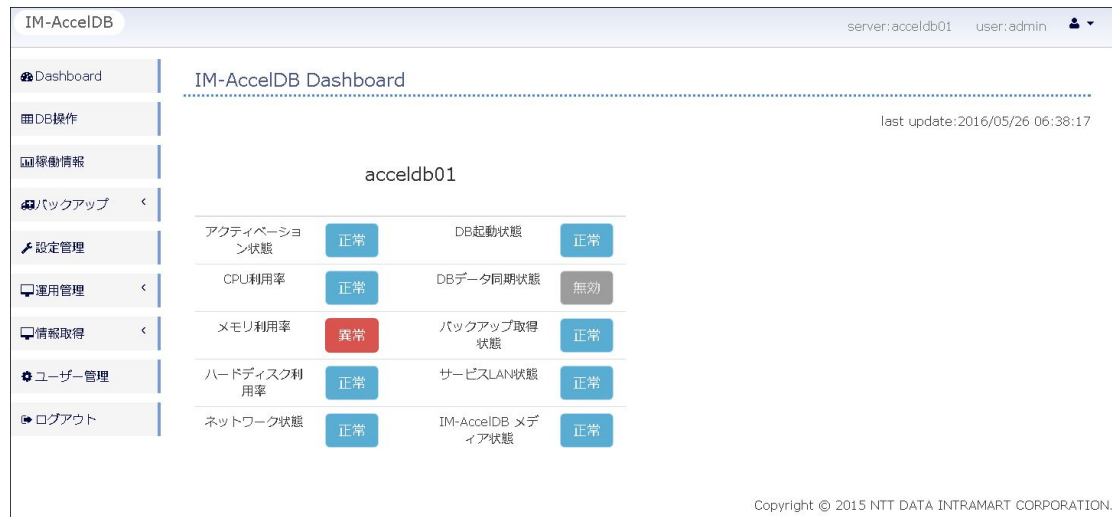
No	用語	内容
1	クラスタ	高い可用性を実現した IM-AccelDB サーバ群です。
2	Master 機	データベースの更新が可能で、クラスタ内に唯一存在するサーバです。
3	Slave 機	クラスタ内に存在する Master 機以外のサーバです。（HA構成の場合のみ）
4	フェイルオーバー	故障などによってMaster 機のサービスが停止した時に、Slave 機の1つがMaster機に切り替わることです。（HA構成の場合のみ）
5	スイッチオーバー	意図的にMaster機のサービスを停止させた時に、Slave機の1つがMaster機に切り替わることです。（HA構成の場合のみ）
6	運用LAN	IM-AccelDB サーバを運用・管理する時に必要な通信を行うネットワークセグメントです。
7	サービスLAN	IM-AccelDB のデータベースを利用するアプリケーションサーバなどと通信を行うネットワークセグメントです。
8	レプリケーションLAN	Master 機のデータベースデータをSlave 機に複製するための通信を行うネットワークセグメントです。
9	インターコネクトLAN	Master 機とSlave 機が互いの起動状態を確認するために通信を行うネットワークセグメントです。
10	bonding	複数のネットワークインターフェースを束ねて一つのネットワークアダプタとして利用することです。
11	リストア	バックアップをデータベースに戻してデータを復元することです。
12	スプリットブレイン	クラスタ内のサーバが分断され、複数のサービスが起動することです。発生すると、データベースの一貫性が保てなくなります。（HA構成の場合のみ）
13	PostgreSQL	IM-AccelDB で採用しているオープンソースの DBMS です。
14	アクティベーション	正規のライセンスを保持していることを確認し、試用状態から正式利用状態に移行することです。 また、IM-AccelDB 利用期限を更新することです。
15	リソース情報	各サーバにおけるネットワーク経路監視、ディスク監視、PostgreSQLの稼働状況です。

共通事項

IM-AccelDB GUIの各機能で共通する画面構成とメニューリストについて示します。

画面構成

IM-AccelDB GUI の画面構成を示します。



画面項目を以下に示します。

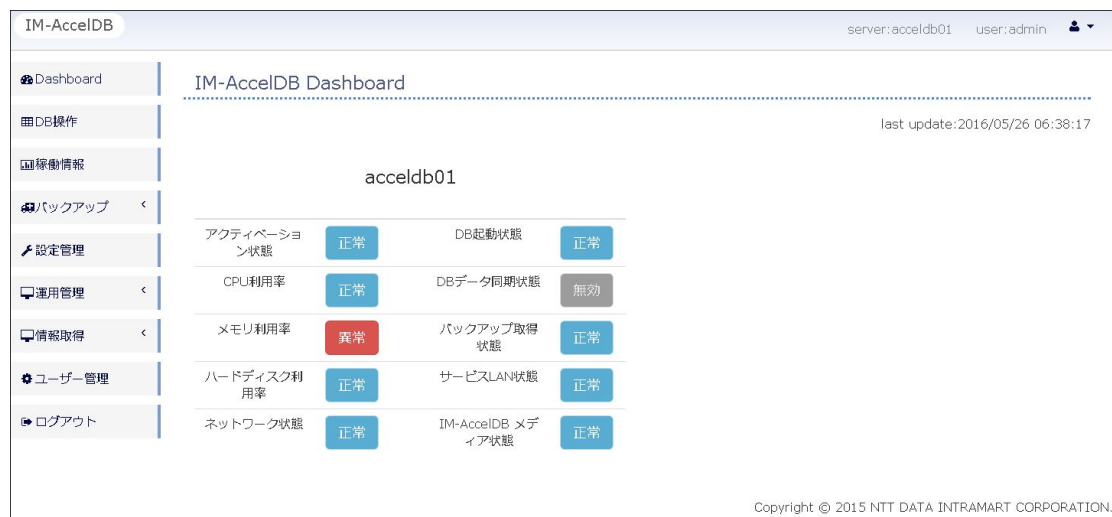
No	項目名	内容
1	メニューリスト	画面左側に表示される IM-AccelDB で使用できる機能の一覧です。 詳細は メニューリスト に示します。
2	操作画面	メニューリストから選択した機能の操作画面です。
3	タイトルバー	画面上部の、サーバのホスト名やログインユーザー名などが表示されるバーです。 [IM-AccelDB] ボタン：クリックすることで、「Dashboard」画面に遷移します。 server：サーバのホスト名を表示します。 user：ログインしているユーザー名を表示します。 人型アイコン：クリックすることで、「ユーザー管理」と「ログアウト」へのリンクを表示します。

メニューリスト

IM-AccelDB を操作する時は、メニューリストから使用する機能を選択して、操作画面を表示します。

「バックアップ」「運用管理」「情報取得」については、複数機能のカテゴリ名として表示しています。

カテゴリ名をクリックすると、各カテゴリの機能が「サブメニュー」に表示されます。



**コラム**

「メニューリスト」に表示される項目はログインユーザーの権限によって変わります。そのため、本マニュアルでも一部、上図と異なる項目を表示していることがあります。

画面項目を以下に示します。

No	項目名	説明
1	Dashboard	IM-AccelDB Dashboard 画面を表示します。
2	DB 操作	データベースを運用／管理する画面を表示します。
3	稼働情報	データベースの稼働情報を示す画面を表示します。
4	バックアップ	データベースのバックアップ・リストアを実施するサブメニューを展開します。 以下に、サブメニュー展開時の画面と各項目について示します。
	一覧表示	バックアップの履歴情報を示す画面を表示します。
	スケジュール設定	バックアップのスケジュール設定の画面を表示します。
	リストア	バックアップファイルのリストアを実行する画面を表示します。
	実行	バックアップを実行する画面を表示します。
	削除	過去のバックアップファイルを削除する画面を表示します。
5	設定管理	IM-AccelDB の設定変更および設定値の確認を行うための画面を表示します。
6	運用管理	IM-AccelDB の運用管理をするサブメニューを展開します。 以下に、サブメニュー展開時の画面と各項目について示します。
	クラスタ管理	クラスタを管理する画面を表示します。
	マシン操作	OS の停止・再起動を実施する画面を表示します。
	ディスク使用率	CPU、メモリ、ディスクの使用率を表示します。
	アクティベーション	アクティベーションを実施する画面を表示します。
7	情報取得	解析情報、サーバリソース、ログを取得する画面を表示します。 以下に、サブメニュー展開時の画面と各項目について示します。
	解析情報取得	故障時などの解析で使用する情報を取得する画面を表示します。
	サーバリソース	サーバリソースの情報をダウンロードする画面を表示します。
	ログ表示	ログを表示およびダウンロードする画面を表示します。
8	ユーザー管理	IM-AccelDB のユーザーを管理する画面を表示します。
9	ログアウト	IM-AccelDB からログアウトする画面を表示します。

**コラム**

DB 操作機能に関する説明は、IM-AccelDB DB操作機能利用マニュアルを参照してください。
稼働情報表示機能に関する説明は、IM-AccelDB 稼働情報表示機能利用マニュアルを参照してください。

ログイン・ログアウト

IM-AccelDB GUIのログイン・ログアウト手順を示します。

ログイン

ログインについて

IM-AccelDB GUIにログインします。
ログインには、ユーザー名とパスワードが必要です。
ユーザーの作成・パスワードの設定については、 [ユーザー管理](#) を参照してください。
IM-AccelDB GUIには、ブラウザからログインします。
ブラウザはInternetExplorerおよびGoogleChromeを推奨します。



コラム

出荷時は、管理ユーザーとして「admin」が設定されています。運用に必要な追加の管理ユーザー、運用ユーザーはログイン後に適宜追加してください。

ログイン手順

- 「ログイン」画面へアクセスするための IPアドレスを確認します。
パラメータシートを参照して、IM-AccelDB サーバの運用 LAN の IP アドレスを確認してください。
Master 機および Slave 機（HA構成の場合）の IPアドレスが必要です。
以下、ここで確認した IP アドレスを< IM-AccelDB IP>とします。
- 「ログイン」画面へアクセスします。ブラウザを開いて、アドレスバーに下記URL を入力します。
http://<IM-AccelDB IP>:5000/
- 「ログイン」画面が表示されることを確認します。

画面項目を以下に示します。

No	項目名	内容
1	ユーザー名	ログインするユーザー名を入力します。
2	パスワード	ログインするユーザーのパスワードを入力します。
3	[ログイン] ボタン	ログインします。
4	[クリア] ボタン	入力したユーザー名、パスワードを消去します。

4. <ユーザー名>、<パスワード>を入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。

5. 「IM-AccelDB Dashboard」画面が表示されることを確認します。

画面には、クラスタを構成する各マシンの状態が表示されます。

Dashboard画面は自動で更新されます。

右上に最後にDashboardを更新した日時が表示されます。

acceldb01	
アクティベーション状態	正常
DB起動状態	正常
CPU利用率	正常
DBデータ同期状態	無効
メモリ利用率	異常
バックアップ取得状態	正常
ハードディスク利用率	正常
サービスLAN状態	正常
ネットワーク状態	正常
IM-AccelDB メディア状態	正常

Copyright © 2015 NTT DATA INTRAMART CORPORATION



コラム

ログインしているサーバは、画面右上の「server」項目に表示される<ホスト名>で判断することができます。

ログインできなかった時の対処方法

IM-AccelDB が正常に動作していない場合、IM-AccelDB にアクセスすると、エラー画面が表示されます。

このページは表示できません

- Web アドレス `http://<IM-AccelDB IP>:5000` が正しいか確かめてください。
- 検索エンジンでそのページを探してください。
- 数分待ってから、ページを最新の情報に更新してください。

接続の問題を修正

エラー画面が表示された場合、以下の手順を実施してください。

1. IM-AccelDB 操作用端末から IM-AccelDB サーバへのネットワークに問題がないか確認します。
2. ネットワークに問題がない場合は、IM-AccelDB サポート窓口までご連絡ください。

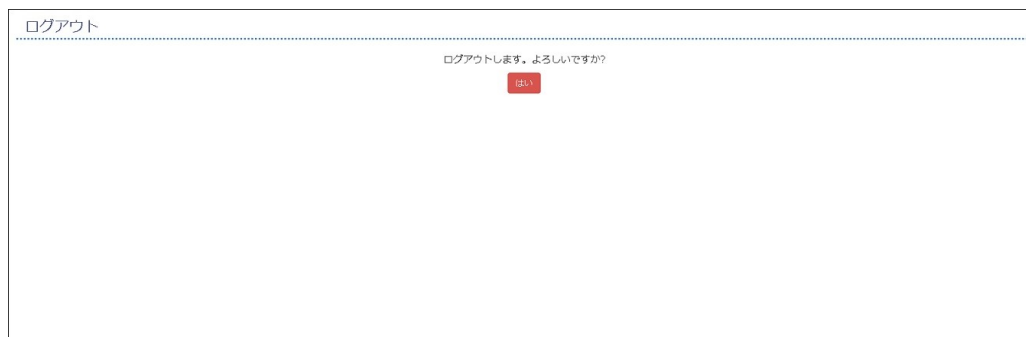
ログアウト

ログアウトについて

IM-AccelDB GUIからログアウトします。ログアウト後は、「ログイン」画面が表示されます。

ログアウト手順

1. メニューリストから、[ログアウト] をクリックします。
2. 「ログアウト」画面が表示されることを確認し、[はい]ボタンをクリックします。



3. 「ログイン」画面が表示されることを確認します。



IM-AccelDBにログイン

ユーザー名

パスワード

ログイン

クリア

The image shows a login form for IM-AccelDB. It has a title bar 'IM-AccelDBにログイン'. Below the title bar are two input fields: 'ユーザー名' (Username) and 'パスワード' (Password). Below the input fields are two green buttons: 'ログイン' (Login) and 'クリア' (Clear).

Dashboard

IM-AccelDB Dashboard について説明します。

Dashboardについて

IM-AccelDB クラスタ内のサーバ状態の概要を表示する機能です。以下の状態を一覧で確認することができます。

- アクティベーション状態
- CPU利用状況
- メモリ利用状況
- ハードディスク利用状況
- ネットワーク状態
- DB起動状態
- DBデータ同期状態
- バックアップ取得状態
- サービスLANの状態
- IM-AccelDB メディア認識状況

「Dashboard」画面項目

Dashboardに表示する項目を説明します。「Dashboard」画面を以下に示します。



各項目の説明と状態の表示内容をそれぞれ以下の表に示します。

No	項目名	説明
1	last update	最後に画面が更新された日時です。Dashboard画面は自動で更新されます。
2	<サーバ>	IM-AccelDB クラスタを構成するサーバのひとつです。サーバ未起動の場合は「not running...」を表示します。
3	<サーバホスト名>	サーバのホスト名を表示します。サーバの情報が取得できなかった場合「-」を表示します。
4	アクティベーション状態	アクティベーション状態の概要を表示します。
5	CPU利用率	CPU利用状況の概要を表示します。
6	メモリ利用率	メモリ利用状況の概要を表示します。
7	ハードディスク利用率	ハードディスク利用状況の概要を表示します。
8	ネットワーク状態	ネットワーク状態の概要を表示します。
9	DB起動状態	データベースの起動状態概要を表示します。

10	DB データ同期状態	データベースのデータ同期状態概要を表示します。シングル構成の場合は「無効」と表示されます。
11	バックアップ取得状態	バックアップの取得状態概要を表示します。
12	サービス LAN 状態	サービス LAN 状態の概要を表示します。
13	IM-AccelDB メディア状態	IM-AccelDB メディアの認識状態を表示します。

No	項目名	表示	説明
1	アクティベーション状態	正常	正常にアクティベーションされている場合に表示します。
		[異常]リンク	アクティベーション期限が切れている、または迫っている、試用期間中の場合に表示します。 [異常]リンクをクリックして「アクティベーション」画面を表示します。
2	CPU 利用率	正常	CPU 利用率が90%未満の場合に表示します。
		[異常]リンク	CPU 利用率が90%以上の場合に表示します。[異常]リンクをクリックして「ディスク利用率」画面を表示します。
3	メモリ利用率	正常	メモリ利用率が90%未満の場合に表示します。
		[異常]リンク	メモリ利用率が90%以上の場合に表示します。[異常]リンクをクリックして「ディスク利用率」画面を表示します。
4	ハードディスク利用率	正常	ハードディスク利用率が80%未満の場合に表示します。
		[異常]リンク	ハードディスク利用率が80%以上の場合に表示します。[異常]リンクをクリックして「ディスク利用率」画面を表示します。
5	ネットワーク状態	正常	ネットワークインターフェースが正常に動作している場合に表示されます。
		異常	ネットワークインターフェースのいずれかに異常が発生している場合に表示されます。ネットワークインターフェースが停止しているか、正しく bondingが組めていない可能性があります。
6	DB 起動状態	正常	データベースが起動している場合に表示します。
		[異常]リンク	データベースが起動していない場合に表示します。[異常]リンクをクリックして「クラスタ管理」画面を表示します。データベースが正しく起動していない可能性があります。
7	DB データ同期状態	正常	IM-AccelDB のクラスタが構築され、データの同期状態になっている場合に表示します。
		[異常]リンク	IM-AccelDB のクラスタが構成されていないか、データの同期状態になっていない場合に表示します。 [異常]リンクをクリックして「クラスタ管理」画面を表示します。「DB起動状態」が正常の場合は、 Slave機のデータベースが起動していないか、レプリケーションLANのネットワークケーブルに問題がある可能性があります。
		無効	シングル構成の場合に表示されます。
8	バックアップ取得状態	正常	最後に実行したバックアップが正常に実施できている場合に表示します。
		[異常]リンク	バックアップが1回も取得されていないか、最後に実行したバックアップがエラーとなっている場合に表示します。[異常]リンクをクリックして「バックアップ」画面を表示します。バックアップが異常終了している可能性があります。
9	サービス LAN 状態	正常	サービス LAN 内の上位のNW機器への接続ができる場合に表示します。
		[異常]リンク	[異常]リンクをクリックして「クラスタ管理」画面を表示します。ネットワーク機器（スイッチ、ネットワークケーブル）などに問題がある可能性があります。
10	IM-AccelDB メディア状態	正常	IM-AccelDB インストールメディアを認識している場合に表示します。
		異常	IM-AccelDB インストールメディアが挿入されていない、または認識できない場合に表示します。 IM-AccelDB インストールメディアが挿入されていない状態でマシンの再起動をした場合、マシンが正常に起動しない可能性があります。

バックアップ

バックアップの各機能について示します。

バックアップについて

データベースのバックアップ取得／リストアを実行する機能です。以下の機能を提供します。

No	機能名	説明
1	一覧表示	バックアップの一覧を表示します。
2	スケジュール設定	バックアップを取得するスケジュールを設定します。
3	リストア	バックアップをリストアします。
4	実行	即時にバックアップを取得します。
5	削除	不要なバックアップを削除します。

一覧表示

取得したバックアップの一覧を表示します。

1. メニューリストから、[バックアップ] の [一覧表示] をクリックします。
2. 「バックアップ一覧表示」画面が表示されることを確認します。
バックアップリストには、取得したバックアップが時刻順で表示されます。
1ページに表示されるバックアップ情報は最大15件です。
16件以上のバックアップ情報は2ページ目以降に表示されます。

バックアップ一覧表示								
バックアップリスト								
種別	バックアップ時刻	所要時間	DBサイズ	データサイズ	WALサイズ	サージログサイズ	全体サイズ	状態
増分	2015-03-19 00:32:15	0m	----	66kB	33MB	----	53kB	OK
増分	2015-03-19 00:32:11	0m	----	66kB	33MB	----	57kB	OK
増分	2015-03-19 00:32:06	0m	----	66kB	33MB	----	39kB	OK
増分	2015-03-19 00:32:00	0m	----	66kB	33MB	----	41kB	OK
増分	2015-03-19 00:31:56	0m	----	66kB	33MB	----	41kB	OK
増分	2015-03-19 00:31:51	0m	----	66kB	33MB	----	41kB	OK
増分	2015-03-19 00:31:45	0m	----	66kB	33MB	----	40kB	OK
増分	2015-03-19 00:31:40	0m	----	66kB	33MB	----	41kB	OK
全体	2015-03-19 00:31:34	0m	24MB	----	33MB	----	2965kB	OK
全体	2015-03-19 00:31:30	0m	24MB	----	33MB	----	2862kB	OK
全体	2015-03-19 00:31:25	0m	24MB	----	33MB	----	3104kB	OK
増分	2015-03-19 00:31:18	0m	----	66kB	67MB	----	182kB	OK
増分	2015-03-19 00:31:14	0m	----	66kB	67MB	----	1134kB	OK
増分	2015-03-19 00:31:09	0m	----	66kB	33MB	----	1106kB	OK
増分	2015-03-19 00:31:05	0m	----	66kB	33MB	----	47kB	OK

Prev 1 2 3 Next

No	項目名	説明
1	種別	バックアップの種別です。 - 「全体」 全体バックアップ - 「増分」 増分バックアップ - 「WAL」 WALバックアップ

2	バックアップ時刻	バックアップの取得を開始した時刻です。 表示形式は「YYYY-MM-DD hh:mm:ss」です。 - YYYY 西暦4桁 - MM 月 - DD 日 - hh 時（24時間表示） - mm 分 - ss 秒 （例）2012-01-01 04:00:00
3	所要時間	バックアップに要した時間です。 （例）30分要した場合：「30m」
4	DBサイズ	データベースの容量です。全体バックアップを取得した場合に表示します。
5	データサイズ	データファイルの容量です。増分バックアップを取得した場合に表示します。
6	WALサイズ	WALファイルの容量です。
7	サーバログサイズ	サーバログの容量です。
8	全体サイズ	バックアップ全体の容量です。
9	状態	バックアップの状態です。 - OK バックアップの取得および検証は正常完了しています(*)。 - DONE バックアップの取得は完了しましたが、検証が未完了です。 - RUNNING バックアップを取得中です。 - ERROR バックアップ取得中にエラーが発生したため、バックアップは取得できていません。 - CORRUPT バックアップが破損しているため、利用できません。 ※ バックアップ機能では、バックアップの取得後に、取得したバックアップの検証を実施します。

スケジュール設定

バックアップを定期的に取得するスケジュールを設定します。

スケジュールは複数設定できます。

また、年月日と時刻を指定して、1回のみ実施するスケジュールも設定できます。

「スケジュール設定」画面の表示

メニューリストから、[バックアップ] の [スケジュール設定] をクリックし、「スケジュール設定」画面が表示されることを確認します。

スケジュール設定

バックアップスケジュールの設定を行います。

スケジュール名	状態	スケジュール				
		月	日	曜日	時	分 年
☐ テストスケジュール	有効	*	*	*	0	* *

作成

削除

No	項目名	説明
1	[削除選択] チェックボックス	削除するスケジュールを選択します。複数選択することも可能です。
2	スケジュール情報表示	設定しているスケジュールの一覧です。 - スケジュール名：クリックすると「スケジュール変更」画面を表示します。 - 状態：『有効』の場合は実行されます。『無効』の場合は実行されません。 - スケジュール：表示された月、日、曜日、時、分、年のときにバックアップを取得します。 「年」については、スケジュールが0件の場合は表示されません。

3	[作成] ボタン	「スケジュール作成」画面を表示します。
4	[削除] ボタン	スケジュールを削除します。

バックアップスケジュールの作成

バックアップのスケジュールを作成します。

1. 「スケジュール設定」画面で [作成] ボタンをクリックします。
2. 「スケジュール作成」画面が表示されます。

スケジュール設定(作成)

バックアップスケジュールの設定を行います。
一覧に戻る

スケジュール名

有効

☐ はい ☐ いいえ

日時設定

* テンプレートから選択する(定期)

毎正時 ▼

☐ 詳細な日時を設定する(定期)

☐ 詳細な日時を設定する(1回)

バックアップ設定

バックアップ対象の指定 (BACKUP_NODE)

* 全体 ☐ 増分 ☐ WAL ☐ 検証のみ

サーバーログ取得有無 (WITH_SERVERLOG)

* ☐ はい ☐ いいえ

データ圧縮有無 (COMPRESS_DATA)

* ☐ はい ☐ いいえ

アーカイブログの保存ファイル数

10

アーカイブログの保存日数

10

データベースバックアップの保存世代数 (KEEP_DATA_GENERATIONS)

3

データベースバックアップの保存日数 (KEEP_DATA_DAYS)

120

サーバーログの保存ファイル数 (KEEP_SRVLOG_FILES)

10

サーバーログの保存日数 (KEEP_SRVLOG_DAYS)

10

作成

クリア

一覧に戻る

No	項目名	説明
1	[一覧に戻る] リンク	「スケジュール設定」画面に戻ります。
2	スケジュール名	作成するスケジュール名を設定します。 設定しない場合、『no title』が設定されます。
3	[有効／無効] ラジオボタン	作成したスケジュールを有効／無効にします。
4	日時設定	バックアップを取得する日時を入力します。
5	バックアップ設定	取得するバックアップの設定を入力します。
6	[作成] ボタン	入力した内容でスケジュールを作成します。
7	[クリア] ボタン	「スケジュール作成」画面を初期状態に戻します。

日時設定は、以下の3通りから選択します。

- ①テンプレートから選択する(定期)
プルダウンから、バックアップを実行するスケジュールを選択します。

日時設定

☒ テンプレートから選択する(定期)

毎正時 ▼

☐ 詳細な日時を設定する(定期)

☐ 詳細な日時を設定する(1回)

No	テンプレート名	内容
1	毎正時	毎時0分にバックアップを実行します。
2	毎日(00:00)	毎日0時0分にバックアップを実行します。
3	毎週(日曜 00:00)	毎週日曜の0時0分にバックアップを実行します。
4	毎月(1日 00:00)	毎月1日の0時0分にバックアップを実行します。
5	毎年(1月1日 00:00)	毎年1月1日の0時0分にバックアップを実行します。

②詳細な日時を設定する(定期)

プルダウンから、バックアップを実行する日、曜日、時、分を選択します。

日時設定

☐ テンプレートから選択する(定期)

☒ 詳細な日時を設定する(定期)

日	曜日	時	分
▼	▼	▼	▼

☐ 詳細な日時を設定する(1回)

③詳細な日時を設定する(1回)

年月日と日時を「YYYY-MM-DD hh:mm」のフォーマットで入力します。

- ・ YYYY 西暦4桁
- ・ MM 月
- ・ DD 日
- ・ hh 時 (24時間表示)
- ・ mm 分

日時設定

☐ テンプレートから選択する(定期)

☐ 詳細な日時を設定する(定期)

☒ 詳細な日時を設定する(1回)

2015-02-20

04

:

05

『YYYY-MM-DD』の入力フォームをクリックすると、カレンダー形式の入力フォームが開きます。



バックアップ設定は、以下の項目を入力します。

バックアップ設定	
バックアップ対象の設定 (BACKUP_MODE)	☒ 全体 ☐ 増分 ☐ WAL ☐ 検証のみ
サーバーログ取得有無 (WITH_SERVERLOG)	☒ はい ☐ いいえ
データ圧縮有無 (COMPRESS_DATA)	☒ はい ☐ いいえ
WALアーカイブの保存ファイル数	10
WALアーカイブWALの保存日数	10
データベースバックアップの保存世代数 (KEEP_DATA_GENERATIONS)	3
データベースバックアップの保存日数 (KEEP_DATA_DAYS)	120
サーバーログの保存ファイル数 (KEEP_SRVLOG_FILES)	10
サーバーログの保存日数 (KEEP_SRVLOG_DAYS)	10

No	項目名	説明
1	バックアップ対象の設定	バックアップモードを選択します。 - 全体：データベースのフルバックアップとWALバックアップを取得します。 - 増分：データベースの増分バックアップとWALバックアップを取得します。 - WAL：データベースのバックアップは取得せず、WALバックアップのみを取得します。 - 検証のみ：取得済みバックアップデータの整合性検証を実行します。バックアップは取得しません。検証のみの場合以降の設定は不要になります。
2	サーバログ取得有無	サーバログのバックアップを取得する設定です。 「はい」を推奨します。
3	データ圧縮有無	取得するバックアップを圧縮する設定です。 「はい」を推奨します。
4	WALアーカイブの保存ファイル数	バックアップ取得時に、過去のWALアーカイブを削除する設定です。 WALアーカイブが設定した値より多く存在する場合、超過分を削除します。
5	WALアーカイブの保存日数	バックアップ取得時に、過去のWALアーカイブを削除する設定です。 設定した保存日数を超えたWALアーカイブを削除します。
6	データベースバックアップの保存世代数	バックアップ取得時に、過去のデータベースバックアップを削除する設定です。 設定した世代数を超えたバックアップを、過去のバックアップから削除します。 世代数は、取得済みの全体バックアップの数と等価です。
7	データベースバックアップの保存日数	バックアップ取得時に、過去のデータベースバックアップを削除する設定です。 設定した保存日数を超えたバックアップを、過去のバックアップから削除します。

- | | | |
|---|---------------|--|
| 8 | サーバログの保存ファイル数 | バックアップ取得時に、過去のサーバログを削除する設定です。
設定したファイル数を超えたサーバログを、過去のバックアップから削除します。 |
| 9 | サーバログの保存日数 | バックアップ取得時に、過去のサーバログを削除する設定です。
設定した保存日数を超えたサーバログを、過去のバックアップから削除します。 |



コラム

増分バックアップを取得するには、全体バックアップを事前に取得している必要があります。



コラム

以下のファイル・バックアップは、2つの設定値を両方超過したときに削除されます。

- ・WALアーカイブ：「保存ファイル数」と「保存日数」
- ・データベースバックアップ：「保存世代数」と「保存日数」
- ・サーバログ：「保存ファイル数」と「保存日数」

- 「スケジュール設定」画面で、日時設定とバックアップ設定を入力します。
例として、毎月3日午前1時に全体バックアップを取得するスケジュールを設定します。

* 詳細な日時を設定する(定期)

日	曜日	時	分
3		1	0

- [作成] ボタンをクリックします。
- 「確認」画面が表示されるので、設定内容を確認後、[はい] ボタンをクリックします。

以下の情報で登録・更新を行ってもよろしいでしょうか？

スケジュール名	test_schedule
有効	☒ はい ☐ いいえ
詳細な日時を設定する(定期)	3日 1時 0分
バックアップ対象の設定 (BACKUP_MODE)	☒ 全体 ☐ 増分
	☐ WAL ☐ 検証のみ
サーバログ取得有無 (WITH_SERVERLOG)	☒ はい ☐ いいえ
データ圧縮有無 (COMPRESS_DATA)	☒ はい ☐ いいえ
アーカイブログの保存ファイル数	10
アーカイブログの保存日数	10
データベースバックアップの保存世代数 (KEEP_DATA_GENERATIONS)	3
データベースバックアップの保存日数 (KEEP_DATA_DAYS)	120
サーバログの保存ファイル数 (KEEP_SRVLOG_FILES)	10
サーバログの保存日数 (KEEP_SRVLOG_DAYS)	10

- 「作成完了」画面が表示されることを確認します。

入力されたスケジュールを新規登録しました。

- 「スケジュール設定」画面で、作成したスケジュールを確認します。

スケジュール設定							
バックアップスケジュールの設定を行います。							
スケジュール名	状態	スケジュール					
		月	日	曜日	時	分	年
☐ test_schedule	無効	*	3	*	1	0	*
☐ テストスケジュール	有効	*	*	*	0	*	*

作成したスケジュールの設定を変更します。

例として、＜テストスケジュール＞の実行時刻を8時に変更します。

1. 「スケジュール設定」画面で、変更対象のスケジュール名をクリックします。

スケジュール設定

バックアップスケジュールの設定を行います。

スケジュール名	状態	月	日	曜日	時	分	年
☐ test_schedule	無効	*	3	*	1	0	*
☐ テストスケジュール	有効	*	*	*	0	*	*

作成 削除

i コラム

変更対象のスケジュールが他ユーザによって更新中の場合、スケジュールを更新することができません。更新中のユーザが下記操作を行えば更新することができるようになります。

- ・[一覧に戻る] リンクによって一覧画面に戻る
- ・[アップデート] ボタンによってスケジュールを更新する
- ・変更対象のスケジュール名をクリックしてから5分以上経過する

2. 「スケジュール変更」画面が表示されたことを確認し、設定を変更します。

● 詳細な日時を設定する(定期)

日	曜日	時	分
3		8	0

● 詳細な日時を設定する(1回)

バックアップ設定

バックアップ対象の設定 (BACKUP_MODE)

サーバーログ取得有無 (WITH_SERVERLOG)

データ圧縮有無 (COMPRESS_DATA)

● WAL ● 検証のみ

え

え

i コラム

「スケジュール変更」画面の項目は、「スケジュール作成」画面と同様です。

3. [アップデート] ボタンをクリックします。
4. 「確認」画面が表示されるので、設定内容を確認後、[はい] ボタンをクリックします。

以下の情報で登録・更新を行ってもよろしいでしょうか？

スケジュール名	テストスケジュール2
有効	* (はい) (いいえ)
詳細な日時を設定する(定期)	0時
バックアップ対象の設定 (BACKUP_MODE)	* 全体 増分 ● WAL ● 検証のみ
サーバーログ取得有無 (WITH_SERVERLOG)	* (はい) (いいえ)
データ圧縮有無 (COMPRESS_DATA)	* (はい) (いいえ)
アーカイブログの保存ファイル数	10
アーカイブログの保存日数	10
データベースバックアップの保存世代数 (KEEP_DATA_GENERATIONS)	3
データベースバックアップの保存日数 (KEEP_DATA_DAYS)	120
サーバーログの保存ファイル数 (KEEP_SRVLOG_FILES)	10
サーバーログの保存日数 (KEEP_SRVLOG_DAYS)	10

はい いいえ

5. 「アップデート完了」画面が表示されることを確認します。

対象スケジュールのデータを更新しました。

一覧に戻る

6. 「スケジュール設定」画面で、変更したスケジュールを確認します。

スケジュール設定

バックアップスケジュールの設定を行います。

スケジュール名	状態	スケジュール					
		月	日	曜日	時	分	年
☐ test_schedule	無効	*	3	*	1	0	*
☐ テストスケジュール2	有効	*	*	*	0	*	*

作成 削除

バックアップスケジュールの削除

作成したスケジュールを削除します。

例として、＜テストスケジュール＞を削除します。

1. 「スケジュール設定」画面で、削除するスケジュールのチェックボックス（複数可）を選択します。全選択を行いたい場合は最上部のチェックボックスを選択します。

スケジュール設定

バックアップスケジュールの設定を行います。

スケジュール名	状態	スケジュール					
		月	日	曜日	時	分	年
☒ テストスケジュール	有効	*	3	*	1	*	*

作成 削除

2. [削除] ボタンをクリックします。
3. 「確認」画面が表示されるので、設定内容を確認後、[はい] ボタンをクリックします。

以下のファイルを削除します。よろしいですか？

ファイル削除

テストスケジュール

はい いいえ

4. 「削除完了完了」画面が表示されることを確認します。

対象スケジュールのデータを削除しました。

一覧に戻る



コラム

「スケジュール変更」と同様に他ユーザによって更新中の場合、スケジュールを削除することはできません。

5. 「スケジュール設定」画面で、削除したスケジュールが表示されていないことを確認します。

スケジュール設定

バックアップスケジュールの設定を行います。

スケジュール名	状態	スケジュール				
		月	日	曜日	時	分

作成 削除

リストア

選択したバックアップをリストアして、データベースをバックアップを取得した時点に戻します。



コラム

リストアでは、データだけではなく、設定ファイル (pg_hba.conf, postgresql.conf) もバックアップの取得時点に戻します。

「バックアップ リストア」画面の表示

メニューリストから、[バックアップ] の [リストア] をクリックし、「バックアップ リストア」画面が表示されることを確認します。

バックアップリスト								
種別	バックアップ時刻	所要時間	DBサイズ	データサイズ	WALサイズ	サーバルログサイズ	全体サイズ	状態
WAL	2015-02-17 17:24:27	0m	----	----	16MB	28MB	30MB	OK
全体	2015-02-17 14:51:14	0m	26MB	----	33MB	24MB	28MB	OK
全体	2015-02-17 14:00:01	0m	26MB	----	33MB	23MB	26MB	OK
全体	2015-02-17 13:00:01	0m	26MB	----	33MB	21MB	24MB	OK
全体	2015-02-17 12:00:01	0m	26MB	----	33MB	19MB	22MB	OK
全体	2015-02-17 11:01:59	0m	26MB	----	33MB	18MB	22MB	OK
全体	2015-02-17 11:00:02	0m	26MB	----	33MB	18MB	22MB	OK
全体	2015-02-17 10:55:27	0m	26MB	----	33MB	18MB	20MB	OK
WAL	2015-02-17 10:55:14	0m	----	----	16MB	18MB	18MB	OK
全体	2015-02-17 10:00:01	0m	26MB	----	33MB	16MB	19MB	OK
全体	2015-02-17 09:00:01	0m	26MB	----	33MB	14MB	17MB	OK
全体	2015-02-17 08:00:01	0m	26MB	----	33MB	13MB	16MB	OK
全体	2015-02-17 07:00:01	0m	26MB	----	33MB	11MB	14MB	OK
全体	2015-02-17 06:00:02	0m	26MB	----	33MB	9908kB	12MB	OK
全体	2015-02-17 05:00:01	0m	26MB	----	33MB	8257kB	11MB	OK

Prev 1 2 3 Next

リストア実行

No	項目名	説明
1	バックアップリスト	1画面で15件までバックアップ情報を表示します。 16件以上のバックアップ情報は2ページ目以降に表示します。
2	[バックアップ選択] ラジオボタン	リストア対象のバックアップを選択します。
3	[リストア実行] ボタン	選択したバックアップをリストアします。

リストアの実行



注意

リストアを実行する前に、クラスタ内のPostgreSQLを全て停止してください。
停止手順は、[クラスタ管理](#)を参照してください。



注意

リストアを実行すると、リストア実行前の設定(pg_hba.conf, postgresql.conf)は消去され、設定変更の履歴にも保存されません。
リストア実行前の設定を保存する場合は、事前に「設定管理」メニューから設定ファイルをダウンロードしてください。

例として、2015年02月07日00時00分30秒に取得したバックアップをリストアします。

1. リストアするバックアップのラジオボタンをクリックします。
リストアするバックアップは、状態が「OK」のものが選択できます。

バックアップ リストア								
バックアップリスト								
種別	バックアップ時間	所要時間	DBサイズ	データサイズ	WALサイズ	サーバログサイズ	金体サイズ	状態
増分	2015-02-07 00:00:30	0m	----	50kB	33MB	----	2079kB	OK
増分	2015-02-07 00:00:27	0m	----	50kB	33MB	----	968kB	OK
増分	2015-02-07 00:00:21	0m	----	50kB	33MB	----	1366kB	OK
増分	2015-02-07 00:00:16	0m	----	50kB	33MB	----	2092kB	OK
全体	2015-02-07 00:00:11	0m	22MB	----	33MB	----	2508kB	OK
増分	2015-02-07 00:00:02	0m	----	50kB	33MB	----	35kB	OK
増分	2015-02-06 23:59:45	0m	----	50kB	33MB	----	35kB	OK
増分	2015-02-06 23:59:40	0m	----	50kB	33MB	----	35kB	OK
増分	2015-02-06 23:59:35	0m	----	50kB	33MB	----	35kB	OK
増分	2015-02-06 23:59:30	0m	----	50kB	33MB	----	34kB	OK
全体	2015-02-06 23:59:26	0m	22MB	----	33MB	----	2940kB	OK

Prev 1 2 Next

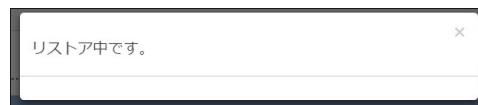
リストア実行

2. [リストア実行] ボタンをクリックします。

3. 「リストア確認」画面が表示されます。表示された日時を確認し、[はい] ボタンをクリックします。



4. [はい] ボタンをクリックすると、「リストア実行中」画面になります。



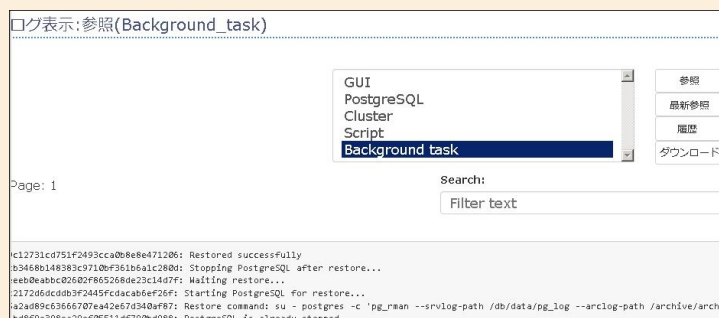
5. 「リストア完了」画面が表示されることを確認します。

[閉じる] ボタンをクリックした後、[クラスタ管理](#)を参照して、PostgreSQLを起動してください。



注意

リストア実行は非同期で行われるため、実行中のままPostgreSQLを起動するとエラーになる可能性があります。リストア実行後は、[ログ参照](#)のBackground taskで、「Restored successfully」が出力されていることを確認してください。



実行

即時にバックアップを取得します。

「バックアップ実行」画面の表示

メニューリストから、[バックアップ] の [実行] をクリックし、「バックアップ実行」画面が表示されることを確認します。

バックアップ実行

データベースのバックアップを行います。
バックアップ内容にカスタマイズが必要な場合は、下表「バックアップ設定」の各項目を変更してください。

バックアップ設定

バックアップの方法を選択してください。	☒ 全体 ☐ 増分 ☐ WAL ☐ 検証のみ
サーバログをバックアップしますか？	☒ はい ☐ いいえ
バックアップファイルを圧縮しますか？	☒ はい ☐ いいえ
バックアップファイルの検証をしますか？	☒ はい ☐ いいえ
バックアップのデータの保存日数を入力してください。	7
バックアップのデータ保存世代数を入力してください。	4
アーカイブログの保存日数を指定してください。	7
サーバログの保存日数を指定してください。	7

バックアップ実行

クリア

No	項目名	説明
1	バックアップ対象を選択してください。	取得するバックアップを選択します。 - 全体：データベースのフルバックアップとWALバックアップを取得します。 - 増分：データベースの増分バックアップとWALバックアップを取得します。 - WAL：WALバックアップのみを取得します。 - 検証のみ：取得済みバックアップの整合性を検証します。バックアップは取得しません。検証のみの場合以降の設定は不要になります。
2	サーバログをバックアップしますか？	サーバログのバックアップを取得する設定です。 「はい」を推奨します。
3	バックアップファイルを圧縮しますか？	取得するバックアップを圧縮する設定です。 「はい」を推奨します。
4	バックアップファイルの検証をしますか？	取得するバックアップをチェックする設定です。 「はい」を推奨します。
5	バックアップのデータの保持日数を入力してください。	バックアップ取得時に、過去のデータベースバックアップを削除する設定です。 設定した保持日数を超えたバックアップを、過去のバックアップから削除します。
6	バックアップのデータ保持世代数を入力してください。	バックアップ取得時に、過去のデータベースバックアップを削除する設定です。 設定した世代数を超えたバックアップを、過去のバックアップから削除します。 世代数は、取得済みの全体バックアップの数と等価です。
7	アーカイブwalの保持日数を指定してください。	バックアップ取得時に、過去のwalアーカイブを削除する設定です。 設定した保持日数を超えたwalアーカイブを削除します。
8	サーバログの保持日数を指定してください。	バックアップ取得時に、過去のサーバログを削除する設定です。 設定した保持日数を超えたサーバログを、過去のバックアップから削除します。
9	[バックアップ実行] ボタン	入力した内容でスケジュールを作成します。
10	[クリア] ボタン	「バックアップ実行」画面を初期状態に戻します。

全体バックアップの実行

データベース全体のバックアップを取得します。

- 全体バックアップを取得する設定を入力します。
全体バックアップを取得する場合は下図の通りに設定します。

バックアップ実行

データベースのバックアップを行います。
バックアップ内容にカスタマイズが必要な場合は、下表「バックアップ設定」の各項目を変更してください。

バックアップ設定	
バックアップの方法を選択してください。	☒ 全体 ☐ 増分 ☐ WAL ☐ 検証のみ
サーバーログをバックアップしますか？	☒ はい ☐ いいえ
バックアップファイルを圧縮しますか？	☒ はい ☐ いいえ
バックアップファイルの検証をしますか？	☒ はい ☐ いいえ
バックアップのデータの保存日数を入力してください。	7
バックアップのデータ保存世代数を入力してください。	4
アーカイブログの保存日数を指定してください。	7
サーバーログの保存日数を指定してください。	7

2. [バックアップ実行] ボタンをクリックします。

i コラム

HA構成の場合、バックアップを実行するマシンは、クラスタ起動状態によって以下のように異なります。

- Master 機のみクラスタ起動：Master 機で実行してください。
- Master 機、Slave 機をクラスタ起動：Slave 機で実行してください。

上記以外の条件で [バックアップ実行] ボタンをクリックすると、エラー画面が表示され、バックアップを実行できません。

バックアップ取得できません。クラスタ状態を確認してください

No	項目名	説明
1	[クラスタ状態を確認する] ボタン	「クラスタ管理」画面に戻ります。
2	[閉じる] ボタン	「バックアップ実行」画面に戻ります。

i コラム

バックアップ実行中に再度バックアップを実行した場合、下記のようなエラーが発生します。
このエラーが発生した時は、時間を置いて再度実行してください。

他のバックアップが実行中です

3. 「バックアップ実行確認」画面が表示されたことを確認し、[はい] ボタンをクリックします。

バックアップを実行します。よろしいですか？

バックアップ方法	☒ 全体 ☐ 増分 ☐ WAL ☐ 検証のみ
サーバーログのバックアップ	☒ はい ☐ いいえ
バックアップファイルの圧縮	☒ はい ☐ いいえ
バックアップファイルの検証	☒ はい ☐ いいえ
保持日数	7
保持世代数	4
WAL保持日数	7
サーバーログ保持日数	7

4. 「バックアップ実行完了」画面が表示されたことを確認し、[一覧に戻る] ボタンをクリックします。

バックアップを実行しました。一覧画面よりご確認ください。

一覧に戻る

5. 「バックアップ一覧表示」画面で、バックアップの実行結果を確認します。

「RUNNING」「DONE(※)」の場合、バックアップは実行中です。

「バックアップ一覧表示」画面は自動更新されますので、状態が変更されるまで待ちます。

以下の例では、2015年05月18日22時32分10秒に開始し、状態「OK」で正常終了しています。

※ 「バックアップファイルの検証」を「いいえ」にした場合、状態「DONE」で終了します。

バックアップ一覧表示								
バックアップリスト								
種別	バックアップ時刻	所要時間	DBサイズ	データサイズ	WALサイズ	サーバログサイズ	全体サイズ	状態
全体	2015-05-18 22:32:10	0m	25MB	----	704MB	87kB	20MB	OK
増分	2015-05-16 00:11:39	0m	----	91kB	33MB	----	39kB	OK
増分	2015-05-16 00:11:34	0m	----	91kB	33MB	----	39kB	OK
増分	2015-05-16 00:11:30	0m	----	91kB	33MB	----	5032kB	OK
増分	2015-05-16 00:11:23	0m	----	91kB	33MB	----	2978kB	OK
全体	2015-05-16 00:11:15	0m	25MB	----	50MB	----	2947kB	OK
全体	2015-01-15 12:30:03	0m	45MB	----	33MB	1849kB	6884kB	OK
全体	2015-01-15 12:27:09	0m	45MB	----	50MB	14MB	26MB	OK
全体	2015-01-15 10:39:51	0m	45MB	----	33MB	12MB	22MB	OK
WAL	2015-01-15 10:39:30	0m	----	----	33MB	12MB	12MB	OK
全体	2015-01-15 10:37:31	0m	45MB	----	33MB	12MB	19MB	OK
増分	2015-01-15 10:37:17	0m	----	238kB	33MB	12MB	14MB	OK
全体	2015-01-15 10:36:56	0m	45MB	----	33MB	29MB	37MB	OK
全体	2015-01-14 17:43:56	0m	44MB	----	33MB	21MB	26MB	OK
全体	2015-01-14 17:38:42	0m	44MB	----	33MB	20MB	26MB	OK

Prev 1 Next

削除

取得したバックアップを削除します。

「バックアップ削除」画面の表示

メニューリストから、[バックアップ]の[削除]をクリックし、「バックアップ削除」画面が表示されることを確認します。

バックアップ削除								
バックアップリスト								
バックアップ履歴の削除を行います。 削除は選択したファイルのバックアップ時刻以前のファイルがすべて削除されます。 種別が増分またはWALの削除に関しては、直下にある全体ファイルを選択してください。								
種別	バックアップ時刻	所要時間	DBサイズ	データサイズ	WALサイズ	サーバログサイズ	全体サイズ	状態
全体	2016-05-26 07:58:09	0m	37MB	----	33MB	4843kB	11MB	OK
増分	2016-05-26 07:57:59	0m	----	525kB	33MB	4834kB	8302kB	OK
増分	2016-05-26 07:57:48	0m	----	525kB	33MB	4814kB	4855kB	OK
増分	2016-05-26 07:57:38	0m	----	525kB	33MB	4805kB	4846kB	OK
増分	2016-05-26 07:57:28	0m	----	525kB	33MB	4797kB	4837kB	OK
増分	2016-05-26 07:57:18	0m	----	525kB	33MB	4788kB	4828kB	OK
増分	2016-05-26 07:57:08	0m	----	525kB	33MB	4779kB	5160kB	OK
増分	2016-05-26 07:56:58	0m	----	525kB	33MB	4770kB	8590kB	OK
増分	2016-05-26 07:56:47	0m	----	525kB	33MB	4753kB	6147kB	OK
増分	2016-05-26 07:56:37	0m	----	525kB	33MB	4744kB	5129kB	OK
増分	2016-05-26 07:56:27	0m	----	525kB	33MB	4735kB	6038kB	OK
増分	2016-05-26 07:56:17	0m	----	525kB	33MB	4726kB	4768kB	OK
全体	2016-05-26 07:56:06	0m	37MB	----	33MB	4717kB	11MB	OK
増分	2016-05-26 07:55:56	0m	----	525kB	33MB	4701kB	11MB	OK
増分	2016-05-26 07:55:46	0m	----	525kB	33MB	4692kB	4731kB	OK

Prev 1 2 3 Next

削除

1	バックアップリスト	1画面で15件までバックアップ情報を表示します。 16件以上のバックアップ情報は2ページ目以降に表示します。
2	[削除選択] ラジオボタン	削除するバックアップデータを選択します。選択した時点のバックアップデータ、および選択した時点のデータ復旧に不要な過去のバックアップデータが削除されます。 削除対象は、全体バックアップを選択できます（最新のものは選択できません）。
3	[削除] ボタン	ラジオボタンで選択した時点のデータ復旧に不要なバックアップデータを削除します。

バックアップ削除の実行

バックアップを削除する手順を示します。

例として、2016年05月26日07時56分06秒より過去のバックアップを削除します。

1. 「バックアップ削除」画面で削除対象を選択します。

増分バックアップおよびWALバックアップは、リストアする際に直前の全体バックアップと組み合わせる必要があります。バックアップファイルの整合性を保つため、全体バックアップファイルのみ削除対象として選択できるようにしています。また、最新のバックアップは削除できません。

今回の例では、2016年05月26日07時58分09秒のバックアップを残すため、1世代前の全体バックアップである2016年05月26日07時56分06秒のバックアップを選択します。

バックアップ削除								
バックアップリスト								
バックアップ履歴の削除を行います。 削除は選択したファイルのバックアップ時刻以前のファイルがすべて削除されます。 種別が増分またはWALの削除に関しては、直下にある全体ファイルを選択してください。								
種別	バックアップ時刻	所要時間	DBサイズ	データサイズ	WALサイズ	サーバログサイズ	全体サイズ	状態
全体	2016-05-26 07:58:09	0m	37MB	----	33MB	4843kB	11MB	OK
増分	2016-05-26 07:57:59	0m	----	525kB	33MB	4834kB	8302kB	OK
増分	2016-05-26 07:57:48	0m	----	525kB	33MB	4814kB	4855kB	OK
増分	2016-05-26 07:57:38	0m	----	525kB	33MB	4805kB	4846kB	OK
増分	2016-05-26 07:57:28	0m	----	525kB	33MB	4797kB	4837kB	OK
増分	2016-05-26 07:57:18	0m	----	525kB	33MB	4788kB	4828kB	OK
増分	2016-05-26 07:57:08	0m	----	525kB	33MB	4779kB	5160kB	OK
増分	2016-05-26 07:56:58	0m	----	525kB	33MB	4770kB	8590kB	OK
増分	2016-05-26 07:56:47	0m	----	525kB	33MB	4753kB	6147kB	OK
増分	2016-05-26 07:56:37	0m	----	525kB	33MB	4744kB	5129kB	OK
増分	2016-05-26 07:56:27	0m	----	525kB	33MB	4735kB	6038kB	OK
増分	2016-05-26 07:56:17	0m	----	525kB	33MB	4726kB	4768kB	OK
全体	2016-05-26 07:56:06	0m	37MB	----	33MB	4717kB	11MB	OK
増分	2016-05-26 07:55:56	0m	----	525kB	33MB	4701kB	11MB	OK
増分	2016-05-26 07:55:46	0m	----	525kB	33MB	4692kB	4731kB	OK

Prev 1 2 3 Next

削除

2. [削除] ボタンをクリックします。
3. 「バックアップ削除確認」画面が表示されます。表示された日時を確認し、[はい] ボタンをクリックします。

×

2016-05-26 07:56:06以前のファイルを削除します。よろしいですか？

はい いいえ

4. 「バックアップ削除完了」画面が表示されたことを確認し、[一覧に戻る] ボタンをクリックします。

バックアップの削除を実行しました。一覧画面よりご確認ください。

一覧に戻る

5. 「バックアップ一覧表示」画面で削除結果を確認します。

以下の例では、2016年05月26日07時58分09秒のバックアップが残り、それ以前のバックアップは削除されています。

バックアップ一覧表示								
last update:2016/05/26 08:03:29								
バックアップリスト								
種別	バックアップ時刻	所要時間	DBサイズ	データサイズ	WALサイズ	サードログサイズ	全体サイズ	状態
全体	2016-05-26 07:58:09	0m	37MB	----	33MB	4843kB	11MB	OK
Prev 1 Next								

設定管理

「設定管理」の概要および使用手順について示します。

設定管理について

個別設定

個別設定では以下の機能を提供します。

No	機能名	説明
1	参照	設定を表示します。
2	変更	設定を変更します。
3	履歴	設定変更の履歴に関する、以下の機能を提供します。 ・設定変更履歴の一覧を表示します。 ・設定変更履歴から過去の設定ファイルをリストアします。 ・不要な設定変更履歴を削除します。
4	ダウンロード	設定ファイルをダウンロードします。

対象とする設定ファイルは以下の通りです。

No	設定ファイル名	内容
1	pg_hba.conf	PostgreSQL のアクセス制御に関する設定です。
2	pg_rman.ini	PostgreSQL バックアップに関する設定です。IM-AccelDB 「バックアップ」メニューで使用します。
3	pg_stats_reporter.ini	PostgreSQL の統計情報取得に関する設定です。IM-AccelDB 「統計情報」メニューで使用します。
4	postgresql.conf	PostgreSQL 全般の設定です。

以下の手順で「設定管理」画面を表示します。

1. メニューリストから、[設定管理] をクリックし、「設定管理」画面を表示します。



No	項目名	内容
1	『設定ファイル選択』	操作対象の設定ファイルを選択します。
2	[参照] ボタン	「参照」画面を表示します。
3	[変更] ボタン	「変更」画面を表示します。
4	[履歴] ボタン	「履歴」画面を表示します。
5	[ダウンロード] ボタン	設定ファイルをダウンロードします。

高度な設定

高度な設定では以下の機能を提供します。

No	機能名	説明
----	-----	----

1	Dry-Run	Dry-Runの最後の実行した結果を表示します。 Run実行はこの画面から行います。
2	履歴	設定変更の履歴に関する、以下の機能を提供します。 ・ 設定変更履歴の一覧を表示します。 ・ 設定変更履歴から過去の設定ファイルをリストアします。 ・ 設定変更を初期化します。 ・ 不要な設定変更履歴を削除します。
3	アップロード	変更するIPアドレスを記載したYAML形式ファイルをアップロードします。



コラム

過去にアップロードを実施し、Dry-Runを実行していない場合、「Dry-Run」ボタンは表示されません。

以下の手順で「設定管理」画面を表示します。

1. メニューリストから、[設定管理] をクリックし、「設定管理」画面を表示します。



No	項目名	内容
1	[Dry-Run] ボタン	「Dry-Run」画面を表示します。
2	[履歴] ボタン	「履歴」画面を表示します。
3	[アップロード] ボタン	設定ファイルをアップロードします。

設定参照

設定を参照する手順を示します。例として、postgresql.conf を参照します。

1. 「設定管理」画面から『postgresql.conf』を選択し、[参照] ボタンをクリックします。
2. 「参照」画面が表示されます。

参照	
一覧に戻る	
postgresql.conf	
パラメータ	設定値
autovacuum	on
autovacuum_max_workers	10
checkpoint_segments	100
checkpoint_timeout	10min
effective_cache_size	128MB
log_autovacuum_min_duration	1min
log_min_duration_statement	2000
maintenance_work_mem	512MB
max_connections	100
pg_statsinfo.repository_keepday	7
pg_statsinfo.sampling_interval	60s
pg_statsinfo.snapshot_interval	120min
random_page_cost	2.0
shared_buffers	32MB
superuser_reserved_connections	10
temp_buffers	8MB
wal_keep_segments	16
work_mem	1MB
詳細設定	
一覧に戻る	

No	項目名	説明
----	-----	----

1	パラメータ	各パラメータ名が表示されます。 pg_hba.confの場合のみ、記載行数が表示されます。
2	設定値	各パラメータの値が表示されます。
3	[一覧に戻る] リンク	「設定管理」画面に戻ります。
4	[詳細設定] タブ	設定表示部で表示していない設定を表示します。

3. 設定表示部で表示されない設定を参照するには、[詳細設定] タブをクリックします。

shared_buffers	32MB
superuser_reserved_connections	10
temp_buffers	8MB
wal_keep_segments	16
work_mem	1MB

詳細設定 ▾

一覧に戻る

4. 詳細設定が表示されます。

パラメータ	設定値
archive_mode	on
autovacuum_freeze_max_age	2000000000
autovacuum_vacuum_cost_limit	400
autovacuum_vacuum_scale_factor	0.2
autovacuum_vacuum_threshold	50
checkpoint_completion_target	0.7
fsync	on
full_page_writes	on
hot_standby_feedback	on
log_checkpoints	on
log_connections	on
log_disconnections	on
log_error_verbosity	verbose
log_lock_waits	on

設定変更

概要

以下の手順を実施します。

1. 設定変更
設定を変更します。
2. 設定読み込み
設定ファイルを読み込んで、変更した設定を有効にします。



コラム

HA構成の場合、設定変更はそれぞれのマシンで実施してください。

設定変更

設定を変更する手順を示します。例として、postgresql.conf を以下のように変更します。

- shared_buffersを32MBから128MBにします。
- work_memを1MBから5MBにします。
- log_temp_filesを100MBから200MBにします。

**注意**

本機能では、設定変更するパラメータについて、形式や整合性の確認は行っておりません。
誤った値を設定した場合、PostgreSQLが起動しなくなることがあります。
起動しなくなった場合は、履歴から設定をリストアすることで、変更前の状態に戻すことが可能です。

1. 「設定管理」画面から「postgresql.conf」を選択し、[変更] ボタンをクリックします。

2. 「変更」画面が表示されます。

パラメータ	設定値
autovacuum	on
autovacuum_max_workers	10
checkpoint_segments	100
checkpoint_timeout	10min
effective_cache_size	128MB
log_autovacuum_min_duration	1min
log_min_duration_statement	2000
maintenance_work_mem	512MB
max_connections	100
pg_statsinfo_sampling_interval	60s
pg_statsinfo_snapshot_interval	120min
random_page_cost	2.0
shared_buffers	128MB
superuser_reserved_connections	10
temp_buffers	8MB

.. table::

No	項目名	説明
1	パラメータ	各パラメータ名が表示されます。 pg_hba.confの場合のみ、記載行数が表示されます。
2	設定値	各パラメータの値が表示されます。
3	[一覧に戻る] リンク	「設定管理」画面に戻ります。
4	[詳細設定] タブ	設定表示部で表示していない設定を表示します。
5	[変更] ボタン	「変更確認」画面を表示します。
6	[クリア] ボタン	入力項目が変更前の値に戻ります

3. 「shared_buffers」に『128MB』と入力します。

pg_statsinfo.sampling_interval	60s
pg_statsinfo.snapshot_interval	120min
random_page_cost	2.0
shared_buffers	128MB
superuser_reserved_connections	10
temp_buffers	8MB

4. 「work_mem」に『5MB』と入力します。

random_page_cost	2.0
shared_buffers	128MB
superuser_reserved_connections	10
temp_buffers	8MB
wal_keep_segments	16
work_mem	5MB

詳細設定 ▼

変更 クリア

一覧に戻る

5. [詳細設定] タブをクリックします。

random_page_cost	2.0
shared_buffers	128MB
superuser_reserved_connections	10
temp_buffers	8MB
wal_keep_segments	16
work_mem	5MB

詳細設定 ▼

変更 クリア

一覧に戻る

6. 詳細設定が表示されたことを確認し、log_temp_filesの行に『200MB』と入力します。

run_page_writes	on
hot_standby_feedback	on
log_checkpoints	on
log_connections	on
log_disconnections	on
log_error_verbosity	verbose
log_lock_waits	on
log_temp_files	200MB
max_files_per_process	1000
max_stack_depth	2MB

7. [変更] ボタンをクリックします。

log_disconnections	on
log_error_verbosity	verbose
log_lock_waits	on
log_temp_files	200MB
max_files_per_process	1000
max_stack_depth	2MB
max_standby_archive_delay	-1
max_standby_streaming_delay	-1
restart_after_crash	off
synchronous_commit	on
tcp_keepalives_count	5
tcp_keepalives_idle	60
tcp_keepalives_interval	103ms

変更 クリア

一覧に戻る

8. 「変更確認」画面が表示されます。変更内容が赤くハイライトされるので確認します。

以下の内容で設定します。よろしいですか？

	変更前	変更後
autovacuum	on	on
autovacuum_max_workers	10	10
checkpoint_segments	100	100
checkpoint_timeout	10min	10min
effective_cache_size	128MB	128MB
log_autovacuum_min_duration	1min	1min
log_min_duration_statement	2000	2000
maintenance_work_mem	512MB	512MB
max_connections	100	100
pg_statsinfo.repository_keepday	7	7
pg_statsinfo.sampling_interval	60s	60s
pg_statsinfo.snapshot_interval	120min	120min
random_page_cost	2.0	2.0
shared_buffers	32MB	128MB
superuser_reserved_connections	10	10
temp_buffers	8MB	8MB
wal_keep_segments	16	16
work_mem	1MB	5MB

詳細設定 ▼

はい いいえ

9. [詳細設定] タブをクリックし、詳細設定の変更内容を確認します。

log_error_verbosity	verbose	verbose
log_lock_waits	on	on
log_temp_files	100MB	200MB
max_files_per_process	1000	1000
max_stack_depth	2MB	2MB
max_standby_archive_delay	-1	-1
max_standby_streaming_delay	-1	-1
restart_after_crash	off	off
synchronous_commit	on	on
tcp_keepalives_count	5	5
tcp_keepalives_idle	60	60

10. 変更内容を確認して、[はい] ボタンをクリックします。

wal_keep_segments	16	16
work_mem	1MB	5MB

詳細設定 ▼

はい いいえ

11. 「変更完了」画面が表示されたことを確認し、[一覧に戻る] ボタンをクリックします。

設定の変更が終了しました。変更した設定を有効にするために、**postgresql.conf**の設定読み込み処理を行ってください。

一覧に戻る

12. 「設定管理」画面が表示されたことを確認し、『postgresql.conf』を選択して [参照] ボタンをクリックします。

設定管理

個別設定

pg_hba.conf
 pg_rman.ini
 pg_stats_reporter.ini
 postgresql.conf

参照 変更 履歴 ダウンロード

13. 変更した設定が反映されていることを確認します。

参照

一覧に戻る

postgresql.conf

パラメータ	設定値
autovacuum	on
autovacuum_max_workers	10
checkpoint_segments	100
checkpoint_timeout	10min
effective_cache_size	128MB
log_autovacuum_min_duration	1min
log_min_duration_statement	2000
maintenance_work_mem	512MB
max_connections	100
pg_statsinfo.repository_keepday	7
pg_statsinfo.sampling_interval	60s
pg_statsinfo.snapshot_interval	120min
random_page_cost	2.0
shared_buffers	128MB
superuser_reserved_connections	10
temp_buffers	8MB
wal_keep_segments	16
work_mem	5MB

詳細設定	
パラメータ	設定値
archive_mode	on
autovacuum_freeze_max_age	2000000000
autovacuum_vacuum_cost_limit	400
autovacuum_vacuum_scale_factor	0.2
autovacuum_vacuum_threshold	50
checkpoint_completion_target	0.7
fsync	on
full_page_writes	on
hot_standby_feedback	on
log_checkpoints	on
log_connections	on
log_disconnections	on
log_error_verbosity	verbose
log_lock_waits	on
log_temp_files	200MB
max_files_per_process	1000
max_stack_depth	2MB
max_standby_archive_delay	-1
max_standby_streaming_delay	-1
restart_after_crash	off
synchronous_commit	on
tcp_keepalives_count	5
tcp_keepalives_idle	60
tcp_keepalives_interval	103ms

一覧に戻る

設定読み込み

設定ファイルを読み込んで、変更した設定を有効にします。

設定ファイルによって、設定読み込み手順が異なります。

- pg_hba.conf
「クラスタ管理」画面で、[DB設定読込] ボタンをクリックしてください。
- pg_rman.ini
設定読み込み手順は不要です。
バックアップのスケジュールを作成した際に、変更した設定でスケジュールを作成します。



コラム

以下の設定は、バックアップ実行（バックアップの即時取得時）にも反映されます。

- ・ WALアーカイブWALの保存日数（KEEP_ARCLOG_DAYS）
- ・ WALアーカイブの保存ファイル数（KEEP_ARCLOG_FILES）

- pg_stats_reporter.ini
「稼働情報」画面で、[Reload config] ボタンをクリックしてください。
- postgresql.conf
「クラスタ管理」画面で、[DB設定読込] ボタンをクリックしてください。
ただし、以下の表に記載されたパラメータについては、「クラスタ管理」画面でクラスタを再起動してください。

（HA構成で再起動が必要な場合は、以下の [付録](#) [【HA構成】 postgresql.conf 変更時のクラスタ再起動](#) に記載された手順を参照してください。）

No パラメータ名

1	archive_mode
---	--------------

例として、変更前にMaster 機のマシンを1号機、Slave 機のマシンを2号機とします。

クラスタ停止前に、Slave 機のPostgreSQLクラスタ状態が「SYNC」になっていることを確認してください。

```
graph TD
    subgraph Machine1 [1号機 Master機]
        direction TB
        M1_1[クラスタ停止]
        M1_2[クラスタ組込]
        M1_3[クラスタ起動 Slave機]
        M1_4[SYNC確認]
        M1_5[完了]
        M1_1 --> M1_2
        M1_2 -.-> M1_3
        M1_3 --> M1_4
        M1_4 --> M1_5
    end

    subgraph Machine2 [2号機 Slave機]
        direction TB
        M2_1[設定変更]
        M2_2[クラスタ停止]
        M2_3[クラスタ起動 Slave機]
        M2_4[SYNC確認]
        M2_5[スイッチオーバー Master機]
        M2_6[完了]
        M2_1 --> M2_2
        M2_2 -.-> M2_3
        M2_3 --> M2_4
        M2_4 --> M2_5
        M2_5 --> M2_6
    end

    M1_1 --> M2_1
    M2_4 --> M1_2
    M2_5 --> M1_2
```

凡例

- クラスタ稼働
- - -> クラスタ停止
- シングル構成
- 設定同期(自動)

i コラム

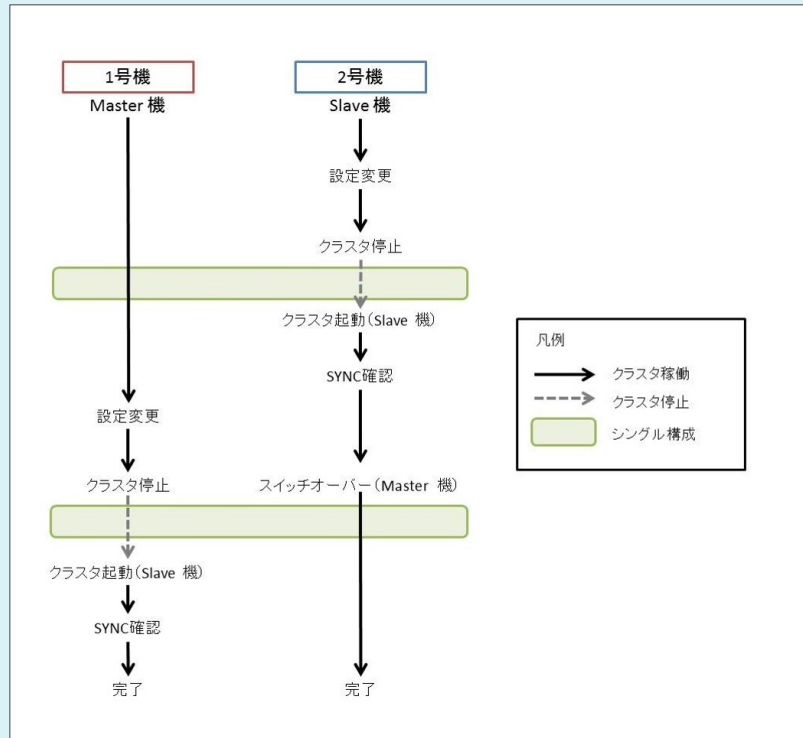
クラスタ組み込みを実施しない手順

再起動時に、クラスタ組み込みを実施しない手順です。以下の場合には、本手順を実施してください。

- クラスタ間で異なる設定にする場合
- クラスタ間で同じ設定をするが、作業時間を短縮したい場合
(クラスタ組み込みを実施しないため、全体の所要時間はクラスタ組み込みを実施する場合と比較して短くなります)

設定を同期しないため、クラスタ内が同じ設定であることは保障されません。

この手順で同じ設定にする場合は、各マシンで同じ設定を入力する必要があります。

**!** 注意

クラスタ再起動ができないとき

組み込みなしの手順の場合、1号機のクラスタ停止からクラスタ起動までの間に2号機でデータが書き込まれると、1号機を起動することができません。

起動できない場合は、クラスタ組み込みを実施してください。

ダウンロード

設定ファイルをダウンロードする手順を示します。例として、`postgresql.conf` をダウンロードします。

1. 「設定管理」画面から『`postgresql.conf`』を選択し、[ダウンロード] ボタンをクリックします。



2. ブラウザのダウンロードダイアログに従って、`postgresql.conf` をダウンロードします。
(ブラウザのバージョンおよび設定によっては、ダイアログが表示されずにファイルが自動でダウンロードされることがあります)

履歴について

以下のタイミングで、過去の設定ファイル（変更前の設定ファイル）が変更履歴に保存されます。

- 設定を変更したとき
- 履歴から設定ファイルをリストアしたとき

設定変更履歴の表示

設定変更履歴を表示する手順を示します。例として、 postgresql.conf の履歴を表示する手順を示します。

1. 「設定管理」画面から『postgresql.conf』を選択し、[履歴] ボタンをクリックします。
2. 「履歴」画面が表示されます。



No	項目名	説明
1	[一覧に戻る] リンク	「設定管理」画面に戻ります。
2	設定変更履歴表示部	設定ファイルの履歴一覧が表示されます。
3	チェックボックス	履歴から削除する設定ファイルを選択します。
4	[ダウンロード] ボタン	履歴から過去の設定ファイルをダウンロードします。 画面上部のダウンロードボタンでチェックしたファイルの一括ダウンロードを行います。
6	[リストア] ボタン	現在の設定を、選択した時点の設定ファイルの値に戻します。
7	[削除] ボタン	履歴から過去の設定ファイルを削除します。



コラム

pg_hba.confで複数の設定項目を同時に変更した場合、設定変更履歴が変更した行数分だけ生成されます。（2行変更した場合、履歴には2ファイル追加されます）



コラム

過去に設定変更を実施していない場合、「履歴」画面で設定変更履歴は表示されません。



ダウンロード

設定変更履歴から過去の設定ファイルをダウンロードする手順を示します。

例として、下記の設定ファイルをダウンロードします。

- 設定ファイル : postgresql.conf
- 日時 : 2015/03/03 07:55



コラム

「設定管理」画面の「ダウンロード」メニューでは、最新の設定ファイルがダウンロードできます。「履歴」画面のダウンロードでは、過去の設定ファイルをダウンロードできます。

1. 「履歴」画面で、ダウンロードする設定ファイルの [ダウンロード] ボタンをクリックします。

履歴				
一覧に戻る				
削除 ダウンロード				
履歴				
☐	変更時刻	対象ファイル	バックアップファイル名	
☐	2016/05/27 00:30	postgresql.conf	postgresql.conf-20160527003014	ダウンロード リストア
☐	2016/05/27 00:30	postgresql.conf	postgresql.conf-20160527003003	ダウンロード リストア
☐	2016/05/27 00:29	postgresql.conf	postgresql.conf-20160527002952	ダウンロード リストア
Prev 1 Next				
一覧に戻る				



コラム

複数ファイルをまとめてダウンロードする場合、対象のファイルにチェックを付け、画面上部の[ダウンロード]ボタンをクリックします。全選択を行いたい場合は最上部のチェックボックスをクリックします。

2. ブラウザのダウンロードダイアログに従って、設定ファイルをダウンロードします。
(ブラウザのバージョンおよび設定によっては、ダイアログが表示されずにファイルが自動でダウンロードされることがあります)

リストア

履歴から設定ファイルをリストアして、設定ファイルを過去の状態に戻します。例として、下記の設定に戻します。

- 設定ファイル : postgresql.conf
- 日時 : 2016/05/27 00:30

1. 「履歴」画面で、履歴の [リストア] ボタンをクリックします。

履歴				
一覧に戻る				
削除 ダウンロード				
履歴				
☐	変更時刻	対象ファイル	バックアップファイル名	
☐	2016/05/27 00:30	postgresql.conf	postgresql.conf-20160527003014	ダウンロード リストア
☐	2016/05/27 00:30	postgresql.conf	postgresql.conf-20160527003003	ダウンロード リストア
☐	2016/05/27 00:29	postgresql.conf	postgresql.conf-20160527002952	ダウンロード リストア
Prev 1 Next				
一覧に戻る				

2. 「設定リストア確認」画面が表示されます。
表示された設定ファイル名を確認し、[はい] ボタンをクリックします。



3. 「設定リストア完了」画面が表示されたことを確認し、[履歴一覧に戻る] ボタンをクリックします。



No	項目名	説明
1	[履歴一覧に戻る] ボタン	「履歴」画面に戻ります。
2	[設定管理に戻る] ボタン	「設定管理」画面に戻ります。

4. リストア前の設定ファイルが履歴に追加されたことを確認します。



5. リストアした設定ファイルを読み込んで、戻した設定を有効にします。
詳細は、[設定読み込み](#) を参照してください。

削除

設定変更履歴から過去の設定ファイルを削除する手順を示します。



注意
一度削除した履歴は復元できません。

例として、下記の設定ファイルを履歴から削除します。

- 設定ファイル : postgresql.conf
- 日時 : 2016/05/27 00:33

1. 「履歴」画面で、削除する設定ファイルを選択して、[削除] ボタンをクリックします。



2. 「削除確認」画面が表示されます。
表示された設定ファイル名を確認し、[はい] ボタンをクリックします。



3. 「履歴」画面で、削除した設定ファイルが表示されていないことを確認します。



ネットワーク設定変更【高度な設定】

IM-AccelDB のネットワーク設定を変更する機能です。
IPアドレスやホスト名の変更が必要な場合に、クラスタ内全てのノードで本手順を実施してください。

前提条件

手順実施前に、以下を確認してください。

- IM-AccelDB の1号機がMaster機の状態、クラスタが停止していること（HA構成の場合は両系が停止していること）



注意

IM-AccelDB インストール後から1回以上クラスタを起動した場合は、1号機がMaster機として起動している状態でクラスタを停止してから、設定変更を実施してください。

また、以下のものを準備してください。

- 変更するIPアドレスを記載したYAML形式ファイル（以下、<IPファイル>）

設定変更

以下の手順で設定変更を行います。

1. クラスタが起動している場合は、クラスタを停止します。
詳細は、[クラスタ停止](#) を参照してください。
2. メニューリストから、[設定管理] をクリックし、「設定管理」画面を表示します。



3. 「高度な設定」から [アップロード] ボタンをクリックし、<IPファイル> をアップロードします。
4. 「ファイルアップロード完了」画面が表示されます。
ファイルチェックが成功していることを確認し、[Dry-Run] ボタンをクリックします。



5. 「Dry-Run」画面が表示されます。「結果」がすべて『成功しました』となっていることを確認し、[Run] ボタンをクリックします。



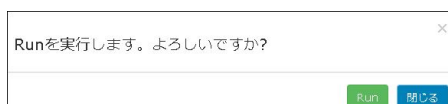
No	項目名	説明
1	last Dry-Run	Dry-Runを実行した最終日時が表示されます。
2	実行結果	Dry-run実行結果の結果が表示されます。 実行に成功していると内容にokが表示されます。
3	[一覧に戻る] リンク	「設定管理」画面に戻ります。
4	[詳細情報] タブ	Dry-Run実行結果の詳細を表示します。
5	[Run]ボタン	変更処理を実行します。



コラム

エラー発生時など、実行結果の詳細を確認する際は [詳細情報] ボタンをクリックします。

6. 「Run確認」画面が表示されたことを確認し、[Run] ボタンをクリックします。



7. 「実行中」画面が表示されたことを確認します（完了画面は表示されません）。

Runを実行しています。



コラム

IM-AccelDB GUIにアクセスするためのIPアドレスを変更する場合は、Run実行中に <変更前のIPアドレス> で IM-AccelDB GUIにアクセスできなくなります。

- 現在開いているウィンドウ（タブ）を開いたまま、ブラウザの新しいウィンドウ（タブ）を開いて、 <変更後のIPアドレス> で IM-AccelDB GUIにアクセスします。



注意

処理の実行中にウィンドウ（タブ）を閉じると、処理が完了しないことがあります。

<変更後のIPアドレス> で IM-AccelDB GUIにアクセスできることを確認後に、古いウィンドウ（タブ）を閉じてください。

- 「設定管理」画面から、「高度な設定」の[履歴] ボタンをクリックし、「履歴」画面を表示します。



- 設定を変更した時刻のバックアップファイルが生成されたことを確認します。

履歴				
一覧に戻る				
削除 ダウンロード 初期化				
履歴				
☐	変更時刻	対象ファイル	バックアップファイル名	
☐	2016/05/27 00:44	upload.yml	upload.yml-20160527004253	ダウンロード リストア



コラム

設定変更成功すると、使用した <IPファイル> がバックアップファイルとして保存されます。

- 変更した設定を反映させるために、OSを再起動します。
メニューリストの [運用管理] から、[マシン操作] をクリックします。

IM-AccelDB

server: acceldb01 user: admin

Dashboard

DB操作

稼働情報

バックアップ

設定管理

運用管理

クラスタ管理

マシン操作

ディスク使用率

アクティベーション

情報取得

ユーザー管理

ログアウト

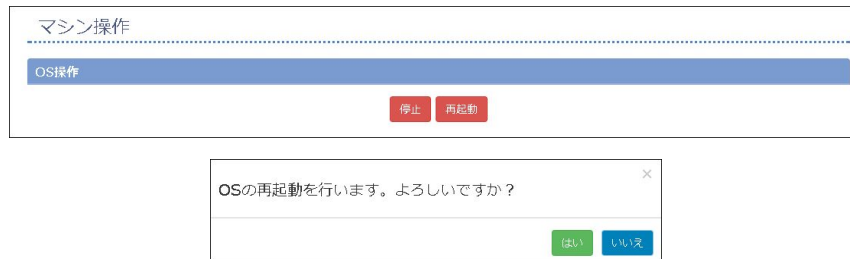
IM-AccelDB Dashboard

last update: 2016/05/27 00:48:22

acceldb01

アクティベーション状態	正常	DB起動状態	異常
CPU利用率	正常	DBデータ同期状態	無効
メモリ利用率	正常	バックアップ取得状態	正常
ハードディスク利用率	正常	サービスLAN状態	異常
ネットワーク状態	正常	IM-AccelDB メディア状態	正常

- [再起動] ボタンをクリックし、[はい] ボタンをクリックします。



13. [再起動] ボタンをクリック後、『処理を実行しています』と表示されます。
再起動には数分時間がかかりますので、しばらくお待ちください。

以上で設定変更は終了です。

[クラスタ管理について](#) を参照して、クラスタ起動・組込ができることを確認してください。



コラム

クラスタ起動できないとき

変更した設定が反映されていない可能性があります。再度OSを再起動してください。

履歴【高度な設定】

履歴について

以下のタイミングで、過去の設定ファイル（変更前の設定ファイル）が変更履歴に保存されます。

- Runを実行したとき。

高度な設定変更履歴の表示

設定変更履歴を表示する手順を示します。

- 「設定管理」画面から「高度な設定」の欄にある、[履歴] ボタンをクリックします。
- 「履歴」画面が表示されます。



No	項目名	説明
1	[一覧に戻る] リンク	「設定管理」画面に戻ります。
2	設定変更履歴表示部	設定ファイルの履歴一覧が表示されます。
3	チェックボックス	履歴から削除する設定ファイルを選択します。
4	[ダウンロード] ボタン	履歴から過去の設定ファイルをダウンロードします。 画面上部のダウンロードボタンでチェックしたファイルの一括ダウンロードを行います。

6	[リストア] ボタン	現在の設定を、選択した時点の設定ファイルの値に戻します。
7	[削除] ボタン	履歴から過去の設定ファイルを削除します。
8	[初期化] ボタン	ネットワーク設定を、インストール直後の状態に戻します。



コラム

過去に設定変更を実施していない場合、「履歴」画面で設定変更履歴は表示されません。



初期化

ネットワーク設定を、インストール直後の状態に戻す機能です。
クラスタ内全てのノードで、本手順を実施してください。

手順実施前に、以下を確認してください。

- * IM-AccelDB の1号機がMaster機の状態で、クラスタが停止していること（HA構成の場合は両系が停止していること）

以下の手順で初期化を行います。

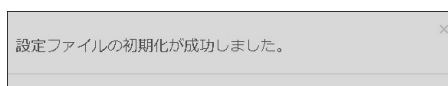
1. 「設定管理」画面から、「高度な設定」の[履歴] ボタンをクリックし、「履歴」画面を表示します。
2. 「履歴」画面の[初期化] ボタンをクリックします。



3. 「初期化確認」画面が表示されることを確認し、[はい] ボタンをクリックします。



4. 「初期化成功」画面が表示されることを確認し、そのままお待ちください。自動でDry-Runが実行されます。



5. 以降は、[設定変更](#) の手順6~14を実施します。

ダウンロード

バックアップファイルをダウンロードする機能です。

以下の手順でダウンロードを行います。

1. 「設定管理」画面から、「高度な設定」の[履歴] ボタンをクリックし、「履歴」画面を表示します。
2. ダウンロードするバックアップファイルの[ダウンロード] ボタンをクリックします。

履歴				
削除 ダウンロード 初期化 一覧に戻る				
履歴				
☐ 変更時刻	対象ファイル	バックアップファイル名		
☐ 2016/05/27 00:44	upload.yml	upload.yml-20160527004253	ダウンロード	リストア
☐ 2016/04/21 03:27	upload.yml	upload.yml-20160421032442	ダウンロード	リストア
☐ 2016/04/15 05:47	upload.yml	upload.yml-20160415054655	ダウンロード	リストア
Prev 1 Next 一覧に戻る				



コラム

複数ファイルをまとめてダウンロードする場合、対象のファイルにチェックを付け、画面上部の[ダウンロード]ボタンをクリックします。全選択を行いたい場合は最上部のチェックボックスをクリックします。

3. ブラウザのダウンロードダイアログに従って、ファイルをダウンロードします。
(ブラウザのバージョンおよび設定によっては、ダイアログが表示されずにファイルが自動でダウンロードされることがあります)

リストア

バックアップファイルからリストアを実行し、その時点の状態に戻す機能です。
クラスタ内全てのノードで、本手順を実施してください。

手順実施前に、以下を確認してください。

- * IM-AccelDB の1号機がMaster機の状態、クラスタが停止していること（HA構成の場合は両系が停止していること）

以下の手順でリストアを行います。

1. 「設定管理」画面から、「高度な設定」の[履歴] ボタンをクリックし、「履歴」画面を表示します。
2. リストアするバックアップファイルの[リストア] ボタンをクリックします。

履歴				
☐ 変更時刻	対象ファイル	バックアップファイル名		
☐ 2016/05/27 01:01	upload.yml	upload.yml-20160421032442	ダウンロード	リストア
☐ 2016/05/27 01:01	upload.yml	upload.yml-20160415054655	ダウンロード	リストア
☐ 2016/05/27 01:01	upload.yml	upload.yml-20160527004253	ダウンロード	リストア

3. 「リストア確認」画面が表示されたことを確認し、[はい] ボタンをクリックします。

以下のファイルでリストアを行います。よろしいですか？

対象リストアファイル

upload.yml

upload.yml-20160421032442

はい
いいえ

4. 「リストアファイル」画面が表示されることを確認し、[Dry-Run] ボタンを選択します。

upload.ymlの設定をupload.yml-20160421032442の情報に戻しました。

Dry-Run
履歴一覧に戻る
設定管理に戻る

5. [Dry-Run] ボタンをクリックすると、Dry-Runが実行されます。
以降は、 [設定変更](#) の手順6~14を実施します。

削除

バックアップファイルを削除する機能です。

以下の手順で削除を行います。

1. 「設定管理」画面から、「高度な設定」の[履歴] ボタンをクリックし、「履歴」画面を表示します。
2. 削除するバックアップファイルのチェックボックスをクリックします。（複数選択可能）



3. 「履歴」画面の[削除] ボタンをクリックします。



4. 「履歴削除確認」画面が表示されることを確認し、[はい] をクリックします。



5. バックアップファイルが削除され、「履歴」画面に戻ります。
6. 削除したバックアップファイルが「履歴」画面に表示されていないことを確認します。



運用管理

運用管理の各機能について説明します。

運用管理について

IM-AccelDB サーバの運用管理をする機能です。以下の用途で使します。

- クラスタ状態を確認、管理します。
- マシンを停止・再起動します。
- ディスク使用率を把握します。
- IM-AccelDB のアクティベーションを行います。
- IM-AccelDB のアップデートを行います。

クラスタ管理

クラスタ管理について

クラスタを構成するMaster 機、およびSlave 機（HA構成の場合）を起動・停止する手順を示します。
起動・停止の大まかな流れは以下の通りです。

- クラスタ起動（8.2.2、8.2.3）
 - ①Master 機：クラスタを起動します。
 - ②Slave 機：クラスタ組み込みを実施して、HA構成のクラスタとして利用可能にします。
- クラスタ停止（8.2.4）
 - ①Slave 機：クラスタを停止し、Master 機から切り離します。
 - ②Master 機：クラスタを停止します。



コラム

IM-AccelDBインストール直後、またIM-AccelDBサーバ起動直後は、クラスタ起動は自動で実施されません。必ず、本手順を実施する必要があります。これは、HA構成のクラスタが自動起動によってスプリットブレインをはじめとする不適切な状態に陥ることを回避するためです。

以下の手順で「クラスタ管理」画面を表示します。

1. メニューリストから、[運用管理] の [クラスタ管理] をクリックします。
2. 「クラスタ管理」画面が表示されることを確認します。

クラスタ管理		
last update:2016/05/27 03:12:55		
クラスタ状態		
ホスト名	acceldb01	acceldb02
サービスLAN masterVIP	Started	-
サービスLAN slaveVIP	-	Started
レプリケーション VIP	Started	-
運用LAN VIP	Started	-
サービスLAN ネットワーク状態	OK	OK
ディスク状態	normal	normal
PostgreSQL 起動状態	MASTER	SLAVE
PostgreSQL クラスタ状態	LATEST	SYNC
詳細情報▼		
クラスタ管理		
起動 停止 DB設定読み込み クラスタ組込		

「クラスタ管理」画面項目を以下に示します。

No	項目名	説明
1	last update	最後に画面が更新された日時です。 クラスタ管理画面は自動で更新されます。
2	クラスタ状態	Master 機、Slave 機（HA構成の場合）の状態です。
3	[詳細情報]タブ	「詳細情報」画面を表示します。
4	[起動] ボタン	ログインしているサーバの PostgreSQL を起動します。
5	[停止] ボタン	ログインしているサーバの PostgreSQL を停止します。
6	[DB設定読み] ボタン	pg_hba.conf、postgresql.confの設定を読み込みます。「設定変更」で設定を変更した後にクリックします。 設定変更の詳細は、 設定変更 を参考にしてください。
7	[クラスタ組込] ボタン	クラスタ組み込みを実行します。

「クラスタ状態」に表示されるパラメータを以下に示します。

No	項目名	表示	説明
1	ホスト名	<ホスト名>	クラスタを構成する各マシンのホスト名が表示されます。
2	サービスLAN master VIP	Started	サービスLAN（Master）のVIPが稼働中です。
		Stopped	サービスLAN（Master）のVIPが停止中です。
3	サービスLAN slave VIP	Started	サービスLAN（Slave）のVIPが稼働中です。
		Stopped	サービスLAN（Slave）のVIPが停止中です。
4	レプリケーションVIP （HA構成の場合）	Started	レプリケーションLANのVIPが稼働中です。HA構成の場合は、Master機にのみ表示されます。
		Stopped	レプリケーションLANのVIPが停止中です。HA構成の場合は、Master機にのみ表示されます。
5	運用LAN	Started	運用LANのVIPが稼働中です。HA構成の場合は、Master機にのみ表示されます。
		Stopped	運用LANのVIPが停止中です。HA構成の場合は、Master機にのみ表示されます。
6	サービスLAN ネットワーク状態	OK	サービスLANのネットワーク状態が正常です。
		NG	サービスLANのネットワーク状態が異常です。
7	ディスク状態	normal	ディスク状態が正常です。
		ERROR	ディスク状態が異常です。
8	PostgreSQL 起動状態	MASTER	クラスタのMaster 機になっています。
		SLAVE	クラスタのSlave 機になっています。
		SLAVE(async)	クラスタのSlave機になっていますが、データは非同期で転送されています。
		POTENTIAL	クラスタ内のサーバ間でデータが非同期で転送されていますが、同期状態に昇格する可能性があります。
		CONNECTED	クラスタのSlave機になっていますが、データは同期されていない可能性があります。
		SINGLE	クラスタを構成せず、1台のみで起動しています。
9	PostgreSQL クラスタ状態	STOP	PostgreSQLが停止しています。
		LATEST	クラスタの状態が正常です。Master 機に表示されます。
		SYNC	クラスタ内のサーバ間でデータが同期で転送されています。
		ASYNC	クラスタ内のサーバ間でデータが非同期で転送されています。

POTENTIAL クラスタ内のサーバ間でデータが非同期で転送されていますが、同期状態に昇格する可能性があります。

DISCONNECT クラスタ内のデータ同期状態が異常です。クラスタ起動時にも表示されます。



コラム

[詳細情報]タブをクリックすると、「詳細情報」画面が表示されます。この画面では、クラスタ構成の監視状況の詳細が表示されます。必要に応じて参照してください。

詳細情報		
Operations	vip-master: migration-threshold=1 + (52) start: rc=0 (ok) + (54) monitor: interval=10000ms rc=0 (ok) prmApache: migration-threshold=1 + (42) start: rc=0 (ok) + (43) monitor: interval=3000ms rc=0 (ok) vip-mgmt: migration-threshold=1 + (58) start: rc=0 (ok) + (59) monitor: interval=10000ms rc=0 (ok) vip-rep: migration-threshold=0 + (55) start: rc=0 (ok) + (57) monitor: interval=10000ms rc=0 (ok) prmPing: migration-threshold=1 + (40) start: rc=0 (ok) + (41) monitor: interval=10000ms rc=0 (ok) pgsq: migration-threshold=1 + (49) promote: rc=0 (ok) + (56) monitor: interval=9000ms rc=8 (master) prmDiskd1: migration-threshold=1 + (38) start: rc=0 (ok) + (39) monitor: interval=10000ms rc=0 (ok) vip-slave: migration-threshold=1 + (53) monitor: interval=10000ms rc=0 (ok) + (63) stop: rc=0 (ok)	vip-slave: migration-threshold=1 + (47) start: rc=0 (ok) + (48) monitor: interval=10000ms rc=0 (ok) pgsq: migration-threshold=1 + (44) start: rc=0 (ok) + (46) monitor: interval=10000ms rc=0 (ok) prmDiskd1: migration-threshold=1 + (38) start: rc=0 (ok) + (39) monitor: interval=10000ms rc=0 (ok) prmPing: migration-threshold=1 + (40) start: rc=0 (ok) + (41) monitor: interval=10000ms rc=0 (ok) prmApache: migration-threshold=1 + (42) start: rc=0 (ok) + (43) monitor: interval=3000ms rc=0 (ok)

Master 機のクラスタ起動

Master 機のクラスタ起動手順を示します。

【手順】以下の手順に従って操作してください。

1. Master 機として起動する IM-AccelDB サーバにログインします。
2. メニューリストから、[運用管理]の[クラスタ管理]をクリックして、「クラスタ管理」画面を表示します。

クラスタ管理

last update:2016/05/27 03:17:12

クラスタ状態

状態

停止中

クラスタ管理

起動

停止

DB設定読み

クラスタ組込

3. 「クラスタ状態」において、状態が『停止中』であることを確認し、「クラスタ管理」の[起動]ボタンをクリックします。
4. 「クラスタ起動確認」画面が表示されたことを確認し、[はい]ボタンをクリックします。

×

クラスタを起動します。よろしいですか？

はい

いいえ

5. 「クラスタ起動完了」画面が表示されたことを確認し、[閉じる]ボタンをクリックします。

×

処理が終了しました。

閉じる

6. 「クラスタ管理」画面は自動で更新されます。
「last update」に最後に画面が更新された日時が表示されます。

クラスタ管理		
last update:2016/05/27 03:23:06		
クラスタ状態		
ホスト名	acceldb01	acceldb02
サービスLAN masterVIP	Started	-
サービスLAN slaveVIP	Started	-
レプリケーションVIP	Started	-
運用LAN VIP	Started	-
サービスLAN ネットワーク状態	OK	-
ディスク状態	normal	-
PostgreSQL起動状態	MASTER	-
PostgreSQLクラスタ状態	LATEST	-

7. 「クラスタ状態」と以下の表を照らし合わせて、対象の IM-AccelDB サーバのPostgreSQLが正常に起動していることを確認します。

No	ホスト名	パラメータ名	確認内容
1	Master 機のホスト名	サービスLAN master VIP	『Started』と表示されていることを確認してください。
2		レプリケーションVIP	『Started』と表示されていることを確認してください。
3		PostgreSQL起動状態	『MASTER』と表示されていることを確認してください。
4		PostgreSQLクラスタ状態	『LATEST』と表示されていることを確認してください。

！ 注意

「クラスタ状態」確認時に、「クラスタ状態」の各項目が表示されることだけでは、正常に起動していることの確認には不十分です。
必ず、上の表の状態になっていることを確認してください。

！ 注意

上の表に関して、『MASTER』が表示されてから『LATEST』と表示されるまで時間がかかる場合があります。
5分経過後に『LATEST』と表示されない場合は、問題が発生している可能性がありますので、
IM-AccelDBサポート窓口までお問い合わせください。

！ 注意

クラスタを再起動する場合、再起動後に手でVACUUMを実行することを推奨します。(※)
VACUUMを行わない場合、初回のAUTOVACUUM実行までに時間がかかり、不要領域割合の閾値超過などのアラート
があがる場合があります。

※VACUUMの代わりにANALYZEを実行することで、コマンドの実行時間を短縮できます。
DBサイズが数10GBオーダーになる場合、ANALYZEの実行をご検討ください。

i コラム

表と異なる文言が表示されたとき：
インストール直後にログインした場合、また異常が発生している場合などは、上の表の説明とは異なる文言が表示されます。
表示文言の詳細情報などは、[クラスタ管理についてのパラメータ表](#)を参照してください。

Slave 機のクラスタ起動（HA構成の場合）

Slave 機のクラスタ起動手順を示します。

！ 注意

Slave 機の クラスタ 起動手順を行う前に、必ず Master機が正常に起動していることを確認してください。
確認する内容は、[Master 機のクラスタ起動](#)を参照してください。

1. Slave 機として起動する IM-AccelDB サーバにログインします。

！ 注意

Master 機にログインしていないことを確認してください。

2. メニューリストから、[運用管理] の [クラスタ管理]をクリックして、「クラスタ管理」画面を表示します。
3. 「クラスタ状態」において、状態が『停止中』であることを確認し、「クラスタ管理」の [クラスタ組込] ボタンをクリックします。

！ 注意

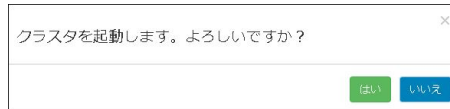
[クラスタ組込]ボタンをクリックする際には、クラスタの起動状態を必ず確認してください。
正しい手順でクラスタ組み込みを実行した場合には、クラスタを構成しているサーバどちらかに、必ず正しいデータベースデータが残ります。
適切なサーバでクラスタ組み込みを行わない場合、データベースのデータが破損する可能性があります。

4. 以下の画面が表示されることを確認し、[はい]ボタンをクリックします。

5. 組み込み準備には時間を要しますので、「実行結果確認」画面が表示されるまでお待ちください。
その後「実行結果確認」画面において、『組み込み準備が完了しました』と表示されることを確認し、[閉じる]ボタンをクリックします。

6. 「クラスタ状態」において、状態が『停止中』であることを確認し、「クラスタ管理」の[起動] ボタンをクリックします。

7. 「クラスタ起動確認」画面が表示されたことを確認し、[はい] ボタンをクリックします。



8. 「クラスタ起動完了」画面が表示されたことを確認し、[閉じる] ボタンをクリックします。



9. 「クラスタ管理」画面は自動で更新されます。
「last update」に最後に画面が更新された日時が表示されます。

クラスタ管理		
		last update:2016/05/27 03:26:15
クラスタ状態		
ホスト名	acceldb01	acceldb02
サービスLAN masterVIP	Started	-
サービスLAN slaveVIP	-	Started
レプリケーション VIP	Started	-
運用LAN VIP	Started	-
サービスLAN ネットワーク状態	OK	OK
ディスク状態	normal	normal
PostgreSQL 起動状態	MASTER	SLAVE
PostgreSQL クラスタ状態	LATEST	SYNC

10. 「クラスタ状態」と以下の表を照らし合わせて、対象の IM-AccelDB サーバが正常に起動している状態になることを確認します。



注意

「クラスタ状態」の「PostgreSQL クラスタ状態」は、正常起動時は、DISCONNECT⇒ASYNC⇒SYNC と状態が遷移します。

No	ホスト名	パラメータ名	確認内容
1	Master 機のホスト名	サービスLAN master VIP	『Started』と表示されていることを確認してください。
2		レプリケーションVIP	『Started』と表示されていることを確認してください。
3		PostgreSQL起動状態	『MASTER』と表示されていることを確認してください。
4		PostgreSQLクラスタ状態	『LATEST』と表示されていることを確認してください。
5	Slave 機のホスト名	サービスLAN slave VIP	『Started』と表示されていることを確認してください。
6		PostgreSQL起動状態	『SLAVE』と表示されていることを確認してください。
7		PostgreSQLクラスタ状態	『SYNC』と表示されていることを確認してください。



注意

Slave機を先に起動してしまったとき

Slave機のクラスタを先に起動した場合、Slave機の「PostgreSQLクラスタ状態」において『SYNC』と表示されません。

この場合、両方のサーバにおいて「クラスタ管理」で[停止]ボタンをクリックし、クラスタ状態が『停止中』となることを確認します。

その後、Master機となるべきサーバで再度 [起動]ボタンをクリックすることで復旧ができます。

クラスタ停止

クラスタの停止手順を示します。HA構成の場合は、Slave 機、Master 機の順で停止します。



注意

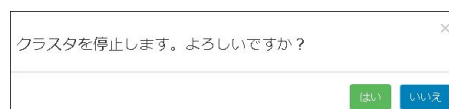
HA構成の場合、PostgreSQL を正常に停止するには、必ず Slave機から停止を行ってください。
Master機から停止を行った場合は、スイッチオーバーが発生するので、注意してください。

○HA構成の場合のみ

1. Slave 機にログインします。
2. メニューリストから、[運用管理] の [クラスタ管理] をクリックして、「クラスタ管理」画面を表示します。
3. 「クラスタ管理」の [停止] ボタンをクリックします。



4. 「クラスタ停止確認」画面が表示されたことを確認し、[はい] ボタンをクリックします。



5. 「クラスタ停止完了」画面が表示されたことを確認し、[閉じる] ボタンをクリックします。



6. 「クラスタ状態」において、状態が『停止中』であることを確認します。



○シングル構成とHA構成の両方

6. Master 機にログインします。
7. 2～5を実施してください。

マシン操作

マシン操作について

OSの操作を行います。以下の手順で、「マシン操作」画面を表示します。

1. メニューリストから、[運用管理] の [マシン操作] をクリックします。
2. 「マシン操作」画面を表示します。



No	項目名	説明
1	[停止] ボタン	OSをシャットダウンし、サーバの電源を切ります。
2	[再起動] ボタン	OSを再起動します。

マシン停止

1. 「OS操作」において、[停止] ボタンをクリックします。



2. [はい] ボタンをクリックします。



注意

[はい]ボタンをクリックしてシャットダウンすると、サーバ本体の電源ボタンを押さないと起動できません。



3. [はい] ボタンをクリック後、『処理を実行しています』と表示されます。
この画面が表示された後、GUIの操作は出来なくなるため、ブラウザを閉じてください。

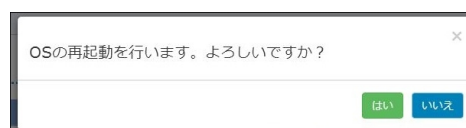


マシン再起動

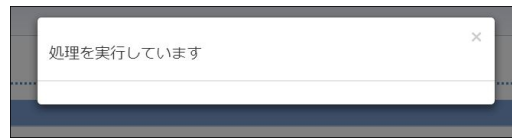
1. 「OS操作」において、[再起動]ボタンをクリックします。



2. [はい]ボタンをクリックします。



3. [はい] ボタンをクリック後、『処理を実行しています』と表示されます。
再起動には数分時間がかかりますので、しばらくお待ちください。

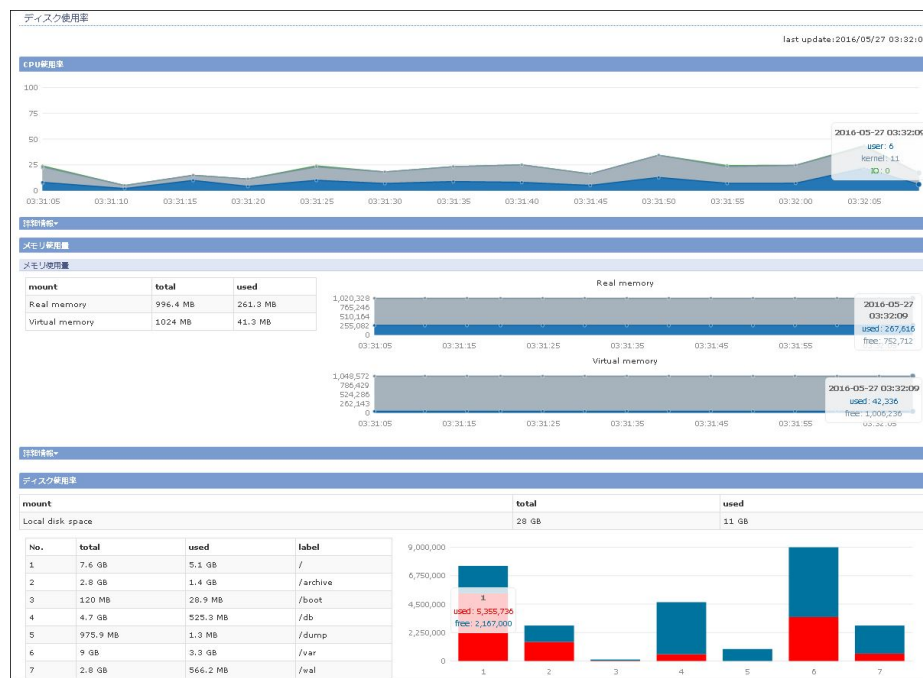


ディスク使用率

ディスク使用率について

ディスク使用率の確認を行います。以下の手順で「ディスク使用率」画面を表示します。

1. メニューリストから、[運用管理] の [ディスク使用率] をクリックします。
2. 「ディスク使用率」画面が表示されることを確認します。
「ディスク使用率」画面は自動で更新されます。 last updateは最後に画面が更新された日時です。

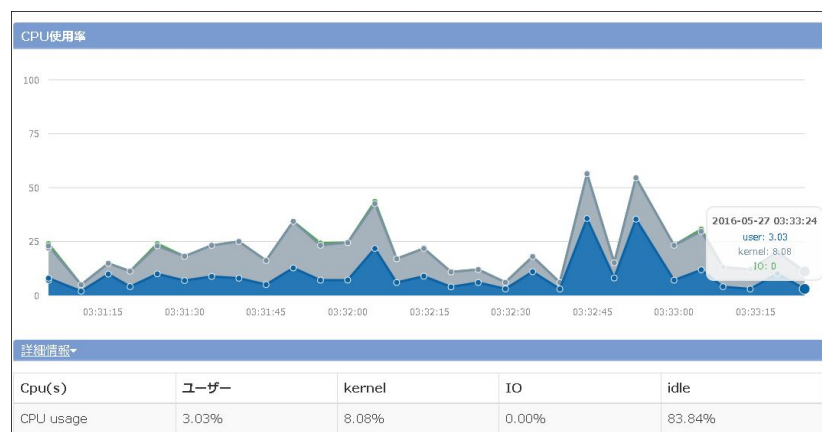


各画面項目

各画面項目について説明します。

CPU使用率

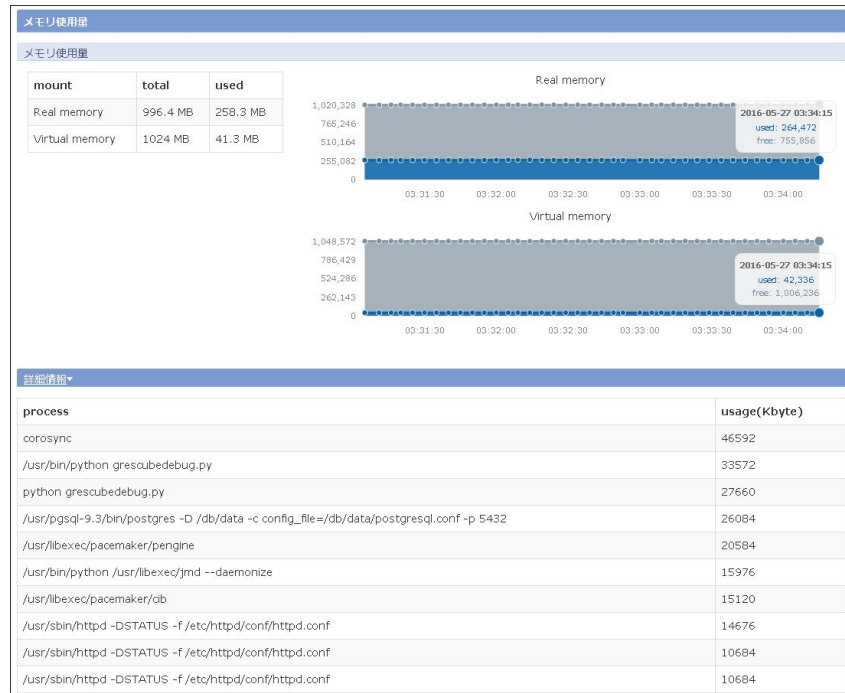
CPU使用率の確認を行います。積み上げグラフになっており、画面を開いてからのデータを表示します。グラフは一定時間ごとに更新され、過去数分間のデータが保持されます。



No	項目名	説明
1	CPU usage	CPU使用率を表示します。 ユーザー: ユーザーのプログラムが使用するCPUの割合です。 kernel: システムプログラムが使用するCPUの割合です。 IO: 入出力で使用するCPUの割合です。 idle: 使用されていないCPUの割合です。

メモリ使用量

メモリ使用量の確認を行います。積み上げグラフになっており、画面を開いてからのデータを表示します。グラフは一定時間ごとに更新され、過去数分間のデータが保持されます。



No	項目名	説明
1	Real memory	物理メモリ使用率を表示します。 total: 物理メモリの総量を表示します。 used: 使用済みである物理メモリ量を表示します。
2	Virtual memory	仮想メモリ使用率を表示します。 total: 仮想メモリの総量を表示します。 used: 使用済みである仮想メモリ量を表示します。
3	詳細情報	メモリ使用率が多い順に表示します。 process: プロセス名を表示します。 used: 使用済みであるメモリ量を表示します。

ディスク使用率

ディスク使用率の確認を行います。棒グラフの赤部分は使用済みのディスク使用率、青部分は未使用のディスク使用率を示しています。棒グラフのラベルは「No.」の番号と対応しています。



No	項目名	説明
1	Local disk space	ディスク全体のサイズと使用済み領域のサイズです。
2	内訳	/(Root filesystem)
3		/archive
4		/boot
5		/db
6		/var
7		/wal

 コラム

ディスクの内訳は、お客様の環境によって異なります。詳細は、パラメータシートを参照してください。

アクティベーション

アクティベーションについて

IM-AccelDB のアクティベーション状況の確認やアクティベーションの実施など、ソフトウェアの管理を行います。

以下の手順で「アクティベーション」画面を表示します。

1. メニューリストから、[運用管理] の [アクティベーション] をクリックします。
2. 「アクティベーション」画面が表示されることを確認します。

アクティベーション

アクティベーション状態

有効期限が迫っています。
再度アクティベーション処理をしてください。
有効期限:2015/06/30

アクティベーション情報登録

アクティベーション

アクティベーションを実行します
アクティベーションボタンを押して、IM-AccelDB 窓口より送付された
アクティベーションキーを入力してください。

アップデート

アップデート

アップデートを実行します。
アップデートボタンを押して、IM-AccelDB 窓口より送付されたファイルを選択してください。

No	項目名	説明
1	アクティベーション状態	IM-AccelDB のアクティベーションの状態と、有効期限を確認することができます。
2	アクティベーション情報登録	アクティベーションキー入力を行うことで、アクティベーションを実行できます。
3	アップデート	IM-AccelDB アップデートを実行します。次節で説明します。

アクティベーション状態

現在のアクティベーション状態に応じたメッセージが表示されます。

アクティベーションが必要な場合は、アクティベーションを勧めるメッセージが表示されますので、アクティベーションを行ってください。



アクティベーション期限について

IM-AccelDB は、正式な手順を踏んでアクティベーションを行わないと、継続して利用することができません。

IM-AccelDB のアクティベーションは、試用期間中、期限切れ間近、期限切れの状態において必要になります。

なお、「アクティベーション状態」は、メニューリストの [運用管理] から [アクティベーション] をクリックして表示します。

試用期間中

IM-AccelDB では、インストール後に 60日間の試用期間を設けています。

試用期間中は、下図に示すように、『試用期間中です。期間内にアクティベーションをしてください。』と表示されます。

インストールから60日以内にアクティベーション情報登録まで完了してください。

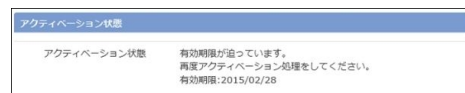


コラム

初回アクティベーション実施済みのインストールメディアでインストールした場合、試用期間中の画面は表示されません。

期限切れ間近

IM-AccelDB の利用期限が切れる 1 か月前から下図に示すメッセージが表示されますので、アクティベーションを実施してください。



期限切れ

IM-AccelDB の利用期限が切れると、下図に示すメッセージが表示され、アクティベーション以外の機能は利用できなくなります。

速やかにアクティベーションを実施してください。



アクティベーション

以下の手順に従い、アクティベーションを行ってください。

注意

アクティベーションは、サーバごとに行う必要があります。サーバ2台それぞれで操作を行ってください。

1. メニューリストから、[運用管理] の [アクティベーション] をクリックし、「アクティベーション」画面を表示します。
2. 「アクティベーション」画面の「アクティベーション情報登録」にて、[アクティベーション] ボタンをクリックします。

アクティベーション情報登録	
アクティベーション	アクティベーションを実行します アクティベーションボタンを押して、IM-AccelDB 窓口より送付された アクティベーションキーを入力してください。

3. 「アクティベーションキー入力」画面が表示されることを確認し、アクティベーションキーを入力します。

アクティベーションキーを入力してください。

アクティベーション

閉じる



コラム

アクティベーションキーが不明な場合は、IM-AccelDBサポート窓口までご連絡ください。

4. アクティベーションキーの入力が完了すると、[アクティベーション]ボタンが有効になることを確認し、クリックします。

アクティベーションキーを入力してください。

IETV - ISTS - CQW - FBZ6 - ICQ2 - SZB7 - SOQ - V43S

アクティベーション

閉じる

5. 「アクティベーション完了」画面が表示されることを確認し、[閉じる]ボタンをクリックします。

アクティベーションを実行しました。
 アクティベーション状態を確認してください。

閉じる

6. メニューリストから、[運用管理]の[アクティベーション]をクリックして画面を更新し、アクティベーション状態に有効期限のみが表示されることを確認します。

アクティベーション状態	
アクティベーション状態	有効期限: 2015/02/28



コラム

誤ったアクティベーションキーを入力してしまったとき：
 アクティベーション実行後、画面を更新してもアクティベーション状態が変化しない場合や、
 「アクティベーション完了」画面以外のメッセージが表示された場合は、
 入力したアクティベーションキーが間違っている可能性があります。
 再度手順 1 から実施し、正しいアクティベーションキーを入力してください。

アップデート

アップデートについて

アップデートファイルをアップロードし、ソフトウェアのバージョンアップを行います。
 ファイルチェックおよびアップデートは、正しくアクティベーションされている状態でのみ可能です。アクティベーション状態を確認して、実行してください。

以下の手順で「アップデート」画面を表示します（サブメニュー「アクティベーション」内にあります）。

1. メニューリストから、[運用管理]の[アクティベーション]をクリックします。
2. 「アップデート」画面が表示されることを確認します。



アップデート

アップデートファイルをアップロードし、アップデートを実行する手順を示します。
ここでは例として、『01-backup』ファイルを使用してアップデートを実行します。



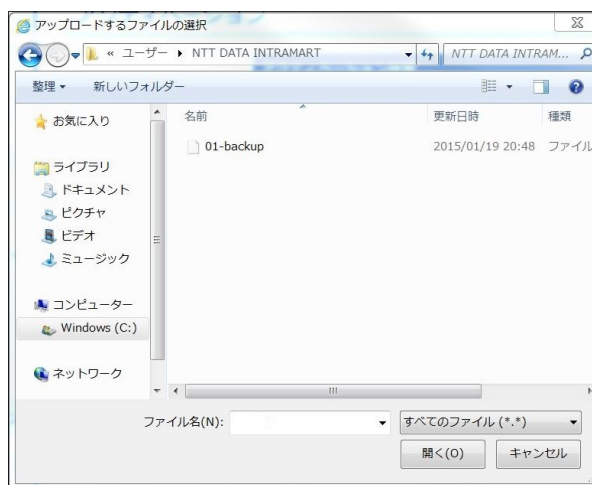
注意

アップデート時には、複数のアップデートファイルを提供することがあります。
アップデートを実行する順番は、アップデートファイルと共に提供するアップデートマニュアルを参照してください。

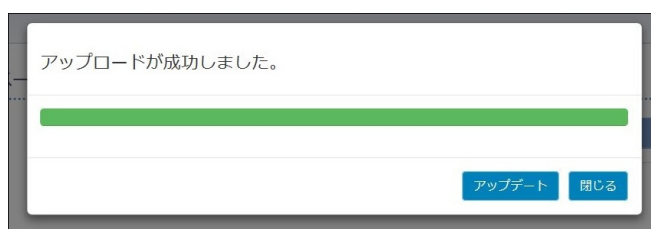
1. 「アップデート」にて、[アップデート] ボタンをクリックします。



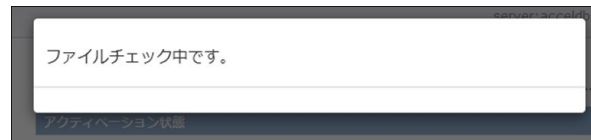
2. 『01-backup』を選択して、[開く] ボタンをクリックします。



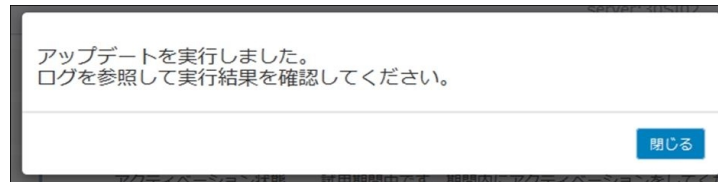
3. 「アップロード完了」画面が表示された後、[アップデート] ボタンをクリックします。



4. アップロードしたファイルのチェックが行われるので、そのままお待ちください。



5. ファイルチェック完了後、アップデートが行われます。アップデートが完了すると、以下のアップデート完了メッセージが表示されますので、[閉じる]をクリックします。



6. メニューリストの [情報取得] から [ログ] をクリックします。『GUI』を選択し、[参照]ボタンをクリックします。アップデート処理が正常に完了したメッセージが出力されていることを確認します。

ログ表示:参照(GUI)

last update:2015/02/20 11:16:03

GUI

PostgreSQL

Cluster

Script

Background task

参照

履歴

ダウンロード

Prev

1

2

3

4

5

6

7

...

52

Next

Page: 1

Search:

Filter text

Items per page:

30

```

1543 2015-02-20 11:16:03,663 INFO: dispatch_request admin dirPagination.tpl.html "pagination" "display"
1542 2015-02-20 11:16:03,484 INFO: dispatch_request admin /gcinfo/gcinfo_showlog.html "log info show" "display"
1541 1424398545.4830.0 [20/Feb/2015 11:15:45] update - localhost update update_script "Update [3.00.00]" "Update [3.00.00]" "5002 update complete. [OK]"
1540 1424398540.4829.0 [20/Feb/2015 11:15:40] update - localhost update update_script "Update [3.00.00]" "Update [3.00.00]" "5001 update begin."
1539 2015-02-20 10:56:38,454 INFO: dispatch_request admin dirPagination.tpl.html "pagination" "display"
1538 2015-02-20 10:56:38,178 INFO: dispatch_request admin /gcinfo/gcinfo_showlog.html "log info show" "display"
1537 2015-02-20 10:56:24,310 INFO: dispatch_request admin /gcinfo/gcinfo_history.html "log info history" "display"
1536 2015-02-20 10:56:21,304 INFO: dispatch_request admin /gcinfo/gcinfo_log.html "log info" "display"
1535 2015-02-20 10:46:58,072 INFO: dispatch_request admin /index.html "Dashboard" "display"
1534 2015-02-20 10:42:52,767 INFO: reboot admin "OS reboot" "exec"
1533 2015-02-20 10:42:35,463 INFO: dispatch_request admin /gcmmg/gcmmg_humng.html "hardware manager" "display"
1532 2015-02-20 10:42:22,649 INFO: stop admin "PostgreSQL stop" "exec"
1531 2015-02-20 10:42:15,651 INFO: dispatch_request admin /gcmmg/gcmmg_humng.html "high availability manager" "display"
1530 2015-02-20 10:42:04,947 INFO: dispatch_request admin /gcmmg/gcmmg_humng.html "hardware manager" "display"
1529 2015-02-20 10:37:49,997 INFO: dispatch_request admin /gcinfo/gcinfo_server.html "server info" "display"
1528 2015-02-20 10:02:10,500 INFO: dispatch_request admin dirPagination.tpl.html "pagination" "display"
1527 2015-02-20 10:02:10,246 INFO: dispatch_request admin /gcinfo/gcinfo_showlog.html "log info show" "display"
1526 2015-02-20 09:55:50,035 INFO: dispatch_request admin dirPagination.tpl.html "pagination" "display"
1525 2015-02-20 09:55:50,776 INFO: dispatch_request admin /gcinfo/gcinfo_showlog.html "log info show" "display"
1524 2015-02-20 09:54:41,590 INFO: dispatch_request admin /gcinfo/gcinfo_log.html "log info" "display"
1523 2015-02-20 09:54:38,937 INFO: dispatch_request admin /index.html "Dashboard" "display"
1522 2015-02-19 19:28:05,767 INFO: dispatch_request admin /gcinfo/gcinfo_log.html "log info" "display"
1521 2015-02-19 19:27:06,697 INFO: dispatch_request admin /gcinfo/gcinfo_history.html "log info history" "display"
1520 2015-02-19 19:27:03,811 INFO: dispatch_request admin /gcinfo/gcinfo_history.html "log info history" "display"
1519 2015-02-19 19:26:54,954 INFO: dispatch_request admin /gcinfo/gcinfo_log.html "log info" "display"
1518 2015-02-19 19:26:51,121 INFO: dispatch_request admin /index.html "Dashboard" "display"
1517 2015-02-19 17:54:00,212 INFO: dispatch_request opeuser /gconfig/gconfig_edit.html "configure edit" "display"
1516 2015-02-19 17:53:57,217 INFO: dispatch_request opeuser /gconfig/gconfig.html "configure" "display"
1515 2015-02-19 17:44:37,421 INFO: start opeuser "PostgreSQL start" "exec"
1514 2015-02-19 17:44:34,784 INFO: _get_cluster_status cluster not start

```

63

情報取得

「情報取得」のサブメニュー「解析情報取得」「サーバリソース」「ログ」について示します。

情報取得について

「情報取得」では、故障時などに解析で使用する情報の取得のため、以下の機能を利用できます。

- サーバの解析情報を取得（ダウンロード）します。
- サーバリソースの統計情報を取得（ダウンロード）します。
- サーバの操作ログやPostgreSQLログを表示します。
- サーバの操作ログやPostgreSQLログをダウンロードします。

解析情報取得

故障時などの解析で使用する情報の取得を行います。

1. メニューリストから、[情報取得] の [解析情報取得] をクリックします。
2. 「解析情報取得」画面の表示を確認し、[ダウンロードファイル作成]ボタンをクリックします。

解析情報取得

last update: 2016/05/27 03:39:42

最新のダウンロードファイルを作成します。完了までに数分かかることがあります。

ダウンロードファイル作成



コラム

過去に解析情報を作成している場合は古いファイルが表示されるので、作成日時を確認して、必要に応じてダウンロードファイル作成を再実行してください。



コラム

ダウンロードファイルを作成中である時は、[ダウンロードファイル作成]ボタンが表示されません。

3. 下図に示すように、「ファイル作成確認」画面が表示されるので、[はい]ボタンをクリックします。作成が完了したら、[閉じる]ボタンをクリックします。

ダウンロードファイルを作成しますか?

はい いいえ

ダウンロードファイルを作成しています。

解析情報ファイルを作成しました。

閉じる

4. 「ダウンロード」画面が表示されたことを確認します。

解析情報取得					
last update:2016/06/28 16:25:32 現在ダウンロードできるファイルは以下の通りです。					
作成日時	ファイル名	md5	容量	ダウンロード	ファイル分割
2016/06/28 16:25	sosreport-accelldb01-2016062816251467098704-KDUMP.tar.xz	72b4a3b8a46d30473789cd3bae2e6407	260 bytes	ダウンロード	ファイル分割
2016/06/28 16:25	sosreport-accelldb01-2016062816251467098704-HA.tar.xz	776929466d5e1d3fe3b9dfee01baf64e	38.1 KB	ダウンロード	ファイル分割
2016/06/28 16:25	sosreport-accelldb01-2016062816251467098704-D8.tar.xz	e857a681e53c4921f8f27833159bb88c	8.6 KB	ダウンロード	ファイル分割
2016/06/28 16:25	sosreport-accelldb01-2016062816251467098704-MSG.tar.xz	8a5b3967e8897e7eb01a199bfae396e4	44.4 KB	ダウンロード	ファイル分割
2016/06/28 16:25	sosreport-accelldb01-2016062816251467098704-ABRT.tar.xz	4090d86b3d0b753ae37bcc51007db1d4	981.6 KB	ダウンロード	ファイル分割
2016/06/28 16:25	sosreport-accelldb01-2016062816251467098704.tar.xz	599f4d878976c23c43602d0ab577eb2c	1 MB	ダウンロード	ファイル分割
2016/06/28 16:25	sosreport-accelldb01-2016062816251467098704-OLD.tar.xz	04d1c12cc5e82da3a0c17bcc030fc511	153.8 KB	ダウンロード	ファイル分割
2016/06/28 16:25	sosreport-accelldb01-2016062816251467098704-RSCS.tar.xz	84103f11416ddf7228c9a4345480b0c	112.5 KB	ダウンロード	ファイル分割
最新のダウンロードファイルを作成します。完了までに数分かかります。					
ダウンロードファイル作成					

「ダウンロード」画面項目を以下に示します。

No	項目名	説明
1	last update	最後に画面が更新された日時です。
2	[+] ボタン	分割したファイルの情報を表示します。
3	作成日時	ファイルの作成日時です。
4	ファイル名	解析情報のファイル名です。 ファイル名の書式は、sosreport-<ホスト名>-<日付>-<ラベル>.tar.xz です。
5	md5	ファイルを識別するためのハッシュ値です。
6	容量	解析情報のファイルサイズです。
7	[ダウンロード] ボタン	ダウンロードを実行します。
8	[ファイル分割] ボタン	ファイル分割を実行します。

- ダウンロードするファイルの[ダウンロード]ボタンをクリックします。
IM-AccelDB サポート窓口への解析情報送付時には、「md5欄」の文字列を記載してください。

作成日時	ファイル名	md5	容量	ダウンロード
2016/06/28 16:25	sosreport-accelldb01-2016062816251467098704-KDUMP.tar.xz	72b4a3b8a46d30473789cd3bae2e6407	260 bytes	ダウンロード

- ブラウザのダウンロードダイアログに従って、ファイルをダウンロードします。
(ブラウザのバージョンおよび設定によっては、ダイアログが表示されずにファイルが自動でダウンロードされることがあります)

解析情報分割

作成した解析情報ファイル内部を5MBごとに分割し、再圧縮します。



コラム

解析情報の作成方法は、解析情報取得と同様です。

- 分割したいファイルの[ファイル分割]ボタンをクリックします。

解析情報取得					
last update:2016/06/28 16:25:32					
現在ダウンロードできるファイルは以下の通りです。					
作成日時	ファイル名	md5	容量	ダウンロード	ファイル分割
2016/06/28 16:25	sosreport-accelldb01-2016062816251467098704-KDUMP.tar.xz	72b4a3b8a46d30473789cd3bae2e6407	260 bytes	ダウンロード	ファイル分割
2016/06/28 16:25	sosreport-accelldb01-2016062816251467098704-HA.tar.xz	776929466d5e1d3fe3b9dfee01baf64e	38.1 KB	ダウンロード	ファイル分割
2016/06/28 16:25	sosreport-accelldb01-2016062816251467098704-DB.tar.xz	e857a681e53c4921f8f27833159bb88c	8.6 KB	ダウンロード	ファイル分割
2016/06/28 16:25	sosreport-accelldb01-2016062816251467098704-MSG.tar.xz	8a5b3967e8897e7eb01a199bfae396e4	44.4 KB	ダウンロード	ファイル分割
2016/06/28 16:25	sosreport-accelldb01-2016062816251467098704-ABRT.tar.xz	4090d86b3d0b753ae37bcc51007db1d4	981.6 KB	ダウンロード	ファイル分割
2016/06/28 16:25	sosreport-accelldb01-2016062816251467098704.tar.xz	599f4d878976c23c43602d0ab577eb2c	1 MB	ダウンロード	ファイル分割
2016/06/28 16:25	sosreport-accelldb01-2016062816251467098704-OLD.tar.xz	04d1c12cc5e82da3a0c17bcc030fc511	153.8 KB	ダウンロード	ファイル分割
2016/06/28 16:25	sosreport-accelldb01-2016062816251467098704-RSCS.tar.xz	84103f11416ddfe7228c9a4345480b0c	112.5 KB	ダウンロード	ファイル分割

2. 下図に示すように、「ファイル分割確認」画面が表示されるので、[はい]ボタンをクリックします。作成が完了したら、[閉じる]ボタンをクリックします。

×

sosreport-accelldb01-2016062816251467098704-KDUMP.tar.xzを分割しますか？

はい

いいえ

×

ファイルを分割しました。一覧のアイコンをクリックして確認してください。

閉じる

3. ダウンロードするファイルの[+]ボタンをクリック後に表示される[ダウンロード]ボタンをクリックします。IM-AccelDB サポート窓口への解析情報送付時には、「md5欄」の文字列を記載してください。

解析情報取得

last update:2016/06/28 16:30:25

現在ダウンロードできるファイルは以下の通りです。

作成日時	ファイル名	md5	容量	ダウンロード	ファイル分割
+	2016/06/28 16:25	sosreport-accelddb01-2016062816251467098704-KDUMP.tar.xz	72b4a3b8a46d30473789cd3bae2e6407	260 bytes	ダウンロード ファイル分割
作成日時	ファイル名	md5	容量	ダウンロード	
2016/06/28 16:30	sosreport-accelddb01-2016062816251467098704-KDUMP_divided.zip	68609bfb24e01446ffca279eca662279	955 bytes	ダウンロード	
2016/06/28 16:25	sosreport-accelddb01-2016062816251467098704-HA.tar.xz	776929466d5e1d3fe3b9dfee01baf64e	38.1 KB	ダウンロード ファイル分割	
2016/06/28 16:25	sosreport-accelddb01-2016062816251467098704-DB.tar.xz	e857a681e53c4921f8f27833159bb88c	8.6 KB	ダウンロード ファイル分割	
2016/06/28 16:25	sosreport-accelddb01-2016062816251467098704-MSG.tar.xz	8a5b3967e8897e7eb01a199bfae396e4	44.4 KB	ダウンロード ファイル分割	
2016/06/28 16:25	sosreport-accelddb01-2016062816251467098704-ABRT.tar.xz	4090d86b3d0b753ae37bcc51007db1d4	981.6 KB	ダウンロード ファイル分割	
2016/06/28 16:25	sosreport-accelddb01-2016062816251467098704.tar.xz	599f4d878976c23c43602d0ab577eb2c	1 MB	ダウンロード ファイル分割	
2016/06/28 16:25	sosreport-accelddb01-2016062816251467098704-OLD.tar.xz	04d1c12cc5e82da3a0c17bcc030fc511	153.8 KB	ダウンロード ファイル分割	
2016/06/28 16:25	sosreport-accelddb01-2016062816251467098704-RSCS.tar.xz	84103f11416ddfe7228c9a4345480b0c	112.5 KB	ダウンロード ファイル分割	

サーバリソース

CPUやメモリなど、日ごとのサーバリソース情報をダウンロードします。

「サーバリソース」画面

以下の手順で「サーバリソース」画面を表示します。

- 1. メニューリストから、[情報取得] の[サーバリソース]をクリックします。
- 2. 「サーバリソース」画面の表示を確認します。

サーバリソース			
ダウンロード			
☐	日時	ファイルサイズ	ダウンロード
☐	2016/05/26	4.1 MB	ダウンロード
☐	2016/05/25	3.7 MB	ダウンロード
☐	2016/05/24	3.3 MB	ダウンロード
☐	2016/05/23	3.5 MB	ダウンロード
☐	2016/05/22	179.4 KB	ダウンロード
☐	2016/05/20	3.2 MB	ダウンロード
☐	2016/05/19	4 MB	ダウンロード
☐	2016/05/18	4 MB	ダウンロード
☐	2016/05/17	3.8 MB	ダウンロード

「サーバリソース」画面項目を以下に示します。

No	項目名	説明
1	チェックボックス	一覧からダウンロードファイルを選択します。
2	日時	サーバリソースファイルの作成日です。
3	ファイルサイズ	サーバリソースファイルのファイルサイズです。
4	[ダウンロード] ボタン	ダウンロードを実行します。 画面上部のダウンロードボタンでチェックしたファイルの一括ダウンロードを行います

サーバリソース情報のダウンロード

サーバリソース情報をダウンロードします。

1. ダウンロードしたい日付行の [ダウンロード] ボタンをクリックします。

サーバリソース			
ダウンロード			
☐	日時	ファイルサイズ	ダウンロード
☐	2016/05/26	4.1 MB	ダウンロード
☐	2016/05/25	3.7 MB	ダウンロード
☐	2016/05/24	3.3 MB	ダウンロード
☐	2016/05/23	3.5 MB	ダウンロード
☐	2016/05/22	179.4 KB	ダウンロード
☐	2016/05/20	3.2 MB	ダウンロード
☐	2016/05/19	4 MB	ダウンロード
☐	2016/05/18	4 MB	ダウンロード
☐	2016/05/17	3.8 MB	ダウンロード



コラム

複数ファイルをまとめてダウンロードする場合、対象のファイルにチェックを付け、画面上部の[ダウンロード]ボタンをクリックします。全選択を行いたい場合は最上部のチェックボックスをクリックします。

2. ブラウザのダウンロードダイアログに従って、ファイルをダウンロードします。
(ブラウザのバージョンおよび設定によっては、ダイアログが表示されずにファイルが自動でダウンロードされることがあります)

ログ表示について

IM-AccelDB に関するログをGUIから参照・ダウンロードすることができます。

本機能は、以下3つのメニューで構成しています。

- ログ参照： 最新のログを表示します。
- ログ最新参照： 最新のログを自動で更新し表示します。
- ログ履歴： 最新のログおよび過去のログをダウンロードします。

対象とするログを以下に示します。

No	ログ名	内容（ログファイル）
1	GUI	GUI の操作ログです。GUIを操作したユーザー名、IP アドレス、日時を確認したいときに参照してください。
2	PostgreSQL	PostgreSQL が出力するログです。PostgreSQL のログを確認したいときに参照してください。
3	Cluster	クラスタのログです。クラスタの操作や状態遷移、フェイルオーバー発生有無、リソース異常などの情報を確認したいときに参照してください。
4	Script	内部のスクリプト実行ログです。通常は参照する必要はありません。 クラスタ組み込み時、アップデータ適用時などに、より詳細な情報を確認したい時に参照してください。
5	Background task	IM-AccelDB がバックグラウンドで実行しているタスクのログです。 リストア実行時に参照してください。



コラム

ログ表示機能の対象ログは、IM-AccelDBのバージョンやお客様環境により、異なる場合があります。

以下の手順で「ログ表示」画面を表示します。

1. メニューリストから、[情報取得] の [ログ] をクリックします。
2. 「ログ表示」画面が表示されたことを確認します。



「ログ表示」画面項目を以下に示します。

No	項目名	説明
1	ログリスト	参照または履歴閲覧、ダウンロードする対象を選択します。
2	[参照] ボタン	「ログリスト」で選択したログの最新ファイルを参照します。
3	[最新参照] ボタン	「ログリスト」で選択したログの最新データを自動更新で表示します。
4	[履歴] ボタン	「ログリスト」で選択したログの過去のファイル一覧を表示します。
5	[ダウンロード] ボタン	「ログリスト」で選択したログの最新ファイルをダウンロードします。

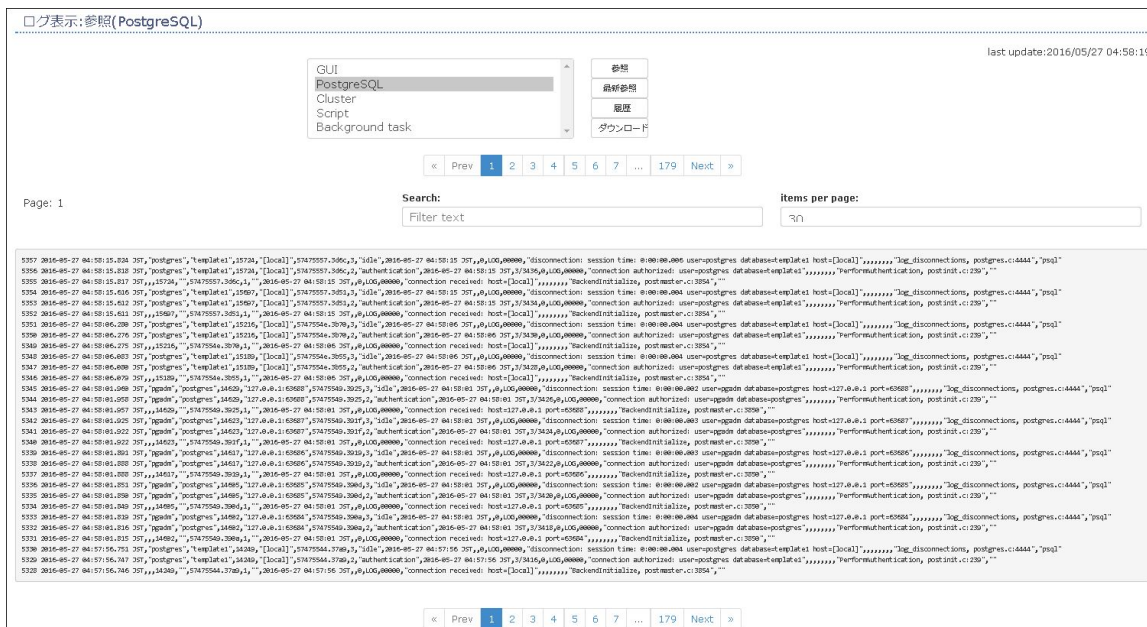
ログ参照

ログの参照手順を示します。ここでは、例としてPostgreSQLログの参照手順を示します。

1. 下図に示すように、『PostgreSQL』を選択し、[参照]ボタンをクリックします。



2. 下図に示すように、PostgreSQLのログが表示されます。最新のログから降順に表示されます。



No	項目名	説明
1	ログ表示部	ログを表示します。
2	[ページ移動] ボタン	ログが1ページに収まらず、複数ページにまたがる場合に表示されます。 [ページ]ボタン：指定のページを表示します。 [Prev]ボタン：一つ前のページを表示します。 [Next]ボタン：一つ後のページを表示します。 [<<]ボタン：最新のログを表示します。 [>>]ボタン：最も古いログを表示します。
3	[Search]欄	入力したワードを含むログのみ表示します。入力後、即座にフィルタリングが行われ ます。
4	[items per page] 欄	1ページに表示するログの行数を指定します。入力後、即座に表示行数が変更されま す。

 コラム

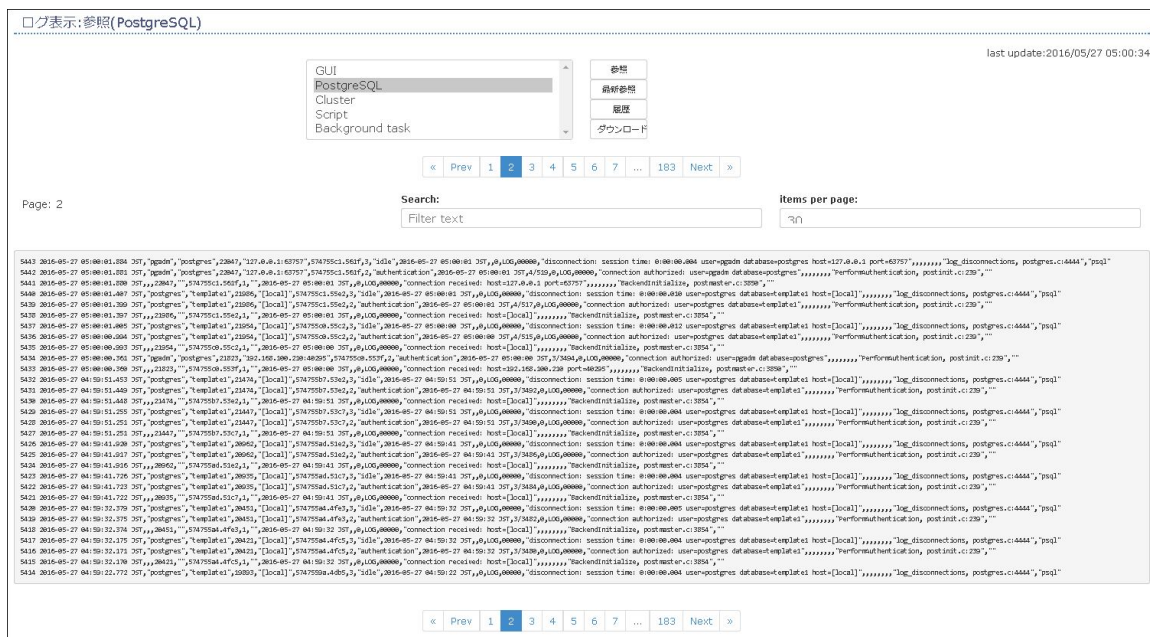
「ログ表示部」に何も表示されないとき：

[参照]ボタンをクリック後、「ログ表示部」に何も表示されないときは、以下の理由が考えられます。

- ・ログファイルは存在するが記録が無い



3. 別ページを表示するときは、対象となる [ページ移動] ボタンをクリックするか、[Prev] ボタンまたは [Next] ボタンをクリックしてページを移動します。



ログ最新参照

ログの最新参照手順を示します。ここでは、例としてPostgreSQLログの最新参照手順を示します。

1. 下図に示すように、『PostgreSQL』を選択し、[参照]ボタンをクリックします。



2. 下図に示すように、PostgreSQLのログ最新参照ページが開きます。
自動更新にチェックが入っていると、このページを開いてから出力されたログが昇順に表示されます。

ログ表示: 最新参照(PostgreSQL)

last update: 2016/05/27 05:11:33

GUI
PostgreSQL
Cluster
Script
Background task

参照
最新参照
履歴
ダウンロード

Search:
Filter text

```
6054 2016-05-27 05:11:30.658 35T,,,31708,,"",57475872.7bdc,1,,"",2016-05-27 05:11:30 35T,,0,LOG,00000,"connection received: host=[local]",,,,,,,,,,"Backend initialize, postmaster.c:3854",,""
6055 2016-05-27 05:11:30.669 35T,"postgres","template1",31708,"[local]",57475872.7bdc,2,"authentication",2016-05-27 05:11:30 35T,3/3865,0,LOG,00000,"connection authorized: user=postgres database=template1,,,,,,,,,"PerformAuthentication, postinit.c:239",,""
6056 2016-05-27 05:11:30.669 35T,"postgres","template1",31708,"[local]",57475872.7bdc,3,"idle",2016-05-27 05:11:30 35T,,0,LOG,00000,"disconnection: session time: 0:00:00.004 user=postgres database=template1 host=[local]",,,,,,,,,,"log_disconnections, postgres.c:4444","psql"
6057 2016-05-27 05:11:30.874 35T,,,31749,,"",57475872.7c05,1,,"",2016-05-27 05:11:30 35T,,0,LOG,00000,"connection received: host=[local]",,,,,,,,,,"Backend initialize, postmaster.c:3854",,""
6058 2016-05-27 05:11:30.875 35T,"postgres","template1",31749,"[local]",57475872.7c05,2,"authentication",2016-05-27 05:11:30 35T,3/3867,0,LOG,00000,"connection authorized: user=postgres database=template1,,,,,,,,,"PerformAuthentication, postinit.c:239",,""
6059 2016-05-27 05:11:30.879 35T,"postgres","template1",31749,"[local]",57475872.7c05,3,"idle",2016-05-27 05:11:30 35T,,0,LOG,00000,"disconnection: session time: 0:00:00.004 user=postgres database=template1 host=[local]",,,,,,,,,,"log_disconnections, postgres.c:4444","psql"
```

☒ 自動更新

No	項目名	説明
1	last update	最後に画面が更新された日時です。
1	ログ表示部	ログを表示します。
3	[Search]欄	入力したワードを含むログのみ表示します。入力後、即座にフィルタリングが行われます。
4	[自動更新] チェックボックス	チェックを入れると最新のログを自動更新で取得しログ表示部に表示します。



コラム

1 時間で[自動更新]チェックボックスのチェックが外れます。
続けて更新を行いたい場合は再度[自動更新]チェックボックスのチェックを入れてください。

ログ履歴

過去のログをダウンロードする手順を示します（最新のログもダウンロードできます）。
例として、ここではPostgreSQLログをダウンロードする方法を示します。

1. 下図に示すように、『PostgreSQL』を選択して [履歴] ボタンをクリックします。

ログ表示

GUI
PostgreSQL
Cluster
Script
Background task

参照
最新参照
履歴
ダウンロード

ログを選択してください。

2. 下図に示すように、PostgreSQLのログ一覧が表示されます。作成日付の新しいログから降順に表示されます。

ログ表示:履歴(PostgreSQL)

last update:2016/05/27 05:15:11

GUI
PostgreSQL
Cluster
Script
Background task

参照
最新参照
履歴
ダウンロード

Prev 1 2 Next

Page: 1

Search:
Filter text

ダウンロード

No.	ファイル名	ファイルサイズ	
1	postgresql-2016-05-27_032135.csv	1.4 MB	ダウンロード
2	postgresql-2016-05-27_031636.csv	17.6 KB	ダウンロード
3	postgresql-2016-05-27_021244.csv	776.7 KB	ダウンロード
4	postgresql-2016-05-27_015546.csv	140.1 KB	ダウンロード

No	項目名	説明
1	ログ履歴表示部	サーバに保存されているログのファイル名とファイルサイズを表示します。 過去のログは圧縮された状態、最新のログは非圧縮の状態で保存されます。
2	[ページ移動] ボタン	ログが1ページに収まらず、複数ページにまたがる場合に表示されます。 [ページ]ボタン：指定のページを表示します。 [Prev]ボタン：一つ前のページを表示します。 [Next]ボタン：一つ後のページを表示します。
3	[Search]欄	入力したワードを含むログのみ表示します。入力後、即座にフィルタリングが行われます。
4	チェックボックス	履歴からダウンロードするログファイルを選択します。
5	[ダウンロード] ボタン	ダウンロードを実行します。 画面上部のダウンロードボタンでチェックしたファイルの一括ダウンロードを行います。



コラム

該当するログファイルが存在しない場合、システムエラーが発生します。

- [ダウンロード]ボタンをクリックします。過去ログのファイル名は、＜ログ名＞ー＜圧縮した日付＞の形式です。ダウンロードする際の参考にしてください。

ログ表示:履歴(PostgreSQL)

last update:2016/05/27 05:18:55

GUI
PostgreSQL
Cluster
Script
Background task

参照
最新参照
履歴
ダウンロード

Prev 1 2 Next

Page: 1

Search:
Filter text

ダウンロード

No.	ファイル名	ファイルサイズ	
1	postgresql-2016-05-27_032135.csv	1.4 MB	ダウンロード
2	postgresql-2016-05-27_031636.csv	17.6 KB	ダウンロード
3	postgresql-2016-05-27_021244.csv	776.7 KB	ダウンロード
4	postgresql-2016-05-27_015546.csv	140.1 KB	ダウンロード



コラム

複数ファイルをまとめてダウンロードする場合、対象のファイルにチェックを付け、画面上部の[ダウンロード]ボタンをクリックします。全選択を行いたい場合は最上部のチェックボックスをクリックします。

**コラム**

＜ログファイルの圧縮について＞

以下にログファイルの圧縮形式を示します。それぞれの形式（gz、tar.gz）に対応した解凍ソフトウェアを使用してください。

No	ログ名	圧縮形式
1	GUI	gz
2	PostgreSQL	tar.gz
3	Cluster	gz
4	Script	gz
5	Background task	gz

4. ブラウザのダウンロードダイアログに従って、ファイルをダウンロードします。
（ブラウザのバージョンおよび設定によっては、ダイアログが表示されずにファイルが自動でダウンロードされることがあります）

ログダウンロード

ログのダウンロード手順を示します。ここでは、例としてPostgreSQLログのダウンロード手順を示します。

[ログ履歴](#)と異なり、ここでは最新のPostgreSQLログしかダウンロードできません。

1. 下図に示すように、「ログ表示」画面にて『PostgreSQL』を選択した状態で[ダウンロード]ボタンをクリックします。



2. ブラウザのダウンロードダイアログに従って、ファイルをダウンロードします。
（ブラウザのバージョンおよび設定によっては、ダイアログが表示されずにファイルが自動でダウンロードされることがあります）

ユーザー管理

- ユーザー管理機能について説明します。
- ユーザー管理機能ではGUIログインユーザーの作成、変更、削除を行うことができます。

IM-AccelDB のユーザーについて

IM-AccelDB のユーザーには、管理ユーザーと運用ユーザーが存在します。

No	ユーザーの種類	説明
1	管理ユーザー	管理者向けのユーザーです。IM-AccelDB のすべての機能にアクセスすることができます。
2	運用ユーザー	運用作業者向けのユーザーです。管理者ユーザーによって設定されたアクセス許可のある機能のみ、アクセスすることができます。他のユーザーの設定を変更することはできません。

「ユーザー管理」画面の表示

「ユーザー管理」画面を表示するには、メニューリストの [ユーザー管理] をクリックします。
ログインしているユーザーが管理者ユーザーの場合にはすべてのユーザーが、
運用ユーザーの場合には自身のユーザーが「ユーザーリスト」に表示されます。



コラム

出荷時には、管理ユーザーとして「admin」が設定されています。必要なユーザーは、適宜追加してください。

No	項目名	説明
1	[ユーザー作成] ボタン	「ユーザー登録」画面を表示します。ログインユーザーが管理者ユーザーの場合にのみ表示されます。
2	「ユーザーリスト」	登録されているユーザーの一覧です。ログインユーザーが運用ユーザーの場合には、自身のユーザーのみが表示されます。
3	[削除] ボタン	チェックを入れたユーザー情報を削除します。

ユーザーの作成

新規ログインユーザーの作成は、「ユーザー登録」画面から行います。
ユーザーの作成は、管理ユーザーでのみ行うことができます。

1. 「ユーザー管理」画面の上部にある [ユーザー作成] ボタンをクリックします。

2. 「ユーザー登録」画面でユーザー設定を行います。

ユーザー管理

[一覧に戻る](#)

ユーザー登録

ユーザー名	必須入力
グループメンバ	operator ▼
パスワード(変更時は入力)	変更なし ☐ 必須入力
ロケール	ja_JP ▼
アクセス可能ページ ☐ すべて選択	☐ Dashboard ☐ DB操作 ☐ 稼働情報 ☐ 一覧表示 ☐ スケジュール設定 ☐ リストア ☐ 実行 ☐ 削除 ☐ 設定管理 ☐ クラスタ管理 ☐ マシン操作 ☐ ディスク使用率 ☐ アクティベーション ☐ 解析情報取得 ☐ サーバリソース ☐ ログ ☐ ユーザー管理一覧 ☐ ユーザー管理登録・更新

作成

クリア

[一覧に戻る](#)

No	項目名	説明
1	[一覧に戻る] リンク	「ユーザー管理」画面に戻ります。
2	ユーザー名	作成するユーザーのユーザー名です。 ユーザ名は一意となるように設定してください。
3	グループメンバ	作成するユーザーのグループです。 管理ユーザーの場合は「administrator」を、運用ユーザーの場合は「operator」を選択します。
4	パスワード	作成するユーザーのGUIログインパスワードです。
5	ロケール	GUIの表示言語です。「ja_JP」を選択してください。
6	アクセス可能ページ	GUIの機能リストです。 アクセスを許可するページにチェックを入れます。
7	[作成] ボタン	入力した内容でユーザを作成します。
8	[クリア] ボタン	「ユーザ作成」画面を初期状態に戻します。

- 設定後、画面下部の [作成] ボタンをクリックします。
- 「確認」画面が表示されるので、設定内容を確認後、[はい] ボタンをクリックします。

以下の情報で登録・更新を行ってもよろしいでしょうか？

ユーザー名	opuser
グループタイプ	operator
パスワード	*****
ロケール	ja_JP

アクセス可能ページ

- ☒ Dashboard
- ☒ DB操作
- ☒ 稼働情報
- ☒ 一覧表示
- ☒ スケジュール設定
- ☒ リストア
- ☒ 実行
- ☒ 削除
- ☒ 設定管理一覧
- ☒ 設定管理参照
- ☒ 設定管理変更
- ☒ 設定管理履歴
- ☒ クラスタ管理
- ☒ マシン操作
- ☒ ディスク使用率
- ☒ アクティベーション
- ☒ 解析情報取得
- ☒ サーバリソース
- ☒ ログ
- ☒ ユーザー管理一覧
- ☒ ユーザー管理登録・更新

はい いいえ

5. 「作成完了」画面が表示されることを確認します。

入力されたユーザーデータを新規登録しました。

一覧に戻る

6. [一覧に戻る] ボタンクリックして「ユーザー管理」画面に戻り、作成したユーザーが一覧に表示されることを確認します。

ユーザー管理

ユーザー作成

ユーザーリスト

名前
☐ admin
☐ opuser

削除

ユーザー情報の変更

ユーザー情報の変更は、「ユーザー登録」画面から行います。
管理ユーザーのみ他のユーザー登録情報を変更することができます。

例として、以下ではユーザー名を以下のように変更します。

opuser → opuser2

1. 「ユーザー管理」画面から、変更対象のユーザー名をクリックします。

ユーザー管理

ユーザー作成

ユーザーリスト

名前
☐ admin
☐ opuser

削除

2. 「ユーザー登録」画面で、変更する情報を編集します。入力項目については、 [ユーザーの作成 2](#) を参照してください。

ユーザー管理

一覧に戻る

ユーザー登録

ユーザー名

opeuser

グループメンバ

operator

パスワード(変更時は入力)

変更なし

必須入力

ロケール

ja_JP

アクセス可能ページ

☐ すべて選択

☐ Dashboard
☐ DB操作
☐ 稼働情報
☐ 一覧表示
☐ スケジュール設定
☐ リストア
☐ 実行
☐ 削除
☐ 設定管理
☐ クラスタ管理
☐ マシン操作
☐ ディスク使用率
☐ アクティベーション
☐ 解析情報取得
☐ サーバリソース
☐ ログ
☐ ユーザー管理一覧
☐ ユーザー管理登録・更新

作成

クリア

一覧に戻る

i コラム

ログインしているユーザ自身の情報を編集する際は、下記項目は編集できません。

- ・ ユーザ管理一覧
- ・ ユーザー管理登録・更新

アクセス可能ページ

☒ すべて選択

☒ Dashboard
☒ DB操作
☒ 稼働情報
☒ 一覧表示
☒ スケジュール設定
☒ リストア
☒ 実行
☒ 削除
☒ 設定管理
☒ クラスタ管理
☒ マシン操作
☒ ディスク使用率
☒ アクティベーション
☒ 解析情報取得
☒ サーバリソース
☒ ログ
☒ ユーザー管理一覧
☒ ユーザー管理登録・更新

3. 編集後、「ユーザー登録」画面下部の [作成] ボタンをクリックします。

i コラム

パスワード設定の「変更なし」にチェックを入れるか、新しいパスワードを入力しないと [作成] ボタンが有効になりません。

4. 「変更確認」画面が表示されるので、内容を確認してから [はい] ボタンをクリックします。

以下の情報で登録・更新を行ってもよろしいでしょうか？

ユーザー名	opuser2
グループタイプ	operator
パスワード	*****
ロケール	ja_JP
アクセス可能ページ	☒ Dashboard ☒ DB操作 ☒ 稼働情報 ☒ 一覧表示 ☒ スケジュール設定 ☒ リストア ☒ 実行 ☒ 削除 ☒ 設定管理一覧 ☒ 設定管理参照 ☒ 設定管理変更 ☒ 設定管理履歴 ☒ クラスタ管理 ☒ マシン操作 ☒ ディスク使用率 ☒ アクティベーション ☒ 解析情報取得 ☒ サーバリソース ☒ ログ ☒ ユーザー管理一覧 ☒ ユーザー管理登録・更新

はい いいえ

5. 「変更完了」画面が表示されることを確認します。

対象ユーザーのデータを更新しました。

一覧に戻る

ユーザーの削除

ユーザーの削除は、「ユーザー管理」画面から行います。
管理ユーザーのみがユーザーを削除することができます。

例として、以下ではopuserを削除します。
Copyright © 2015 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

1. 「ユーザー管理」画面で削除対象のユーザーのチェックボックスにチェックを入れ、画面下部の [削除] ボタンをクリックします。

ユーザー管理

ユーザー作成

ユーザーリスト

名前
☐ admin
☒ opuser

削除

2. 「ユーザー削除確認」画面が表示されるので、削除されるユーザーを確認後、[はい] ボタンをクリックします。

以下のユーザーを削除します。よろしいですか？

ユーザー削除

opuser

はい いいえ

3. 「ユーザー削除完了」画面が表示されることを確認します。



4. 「ユーザー管理」画面に戻り、削除したユーザーが「ユーザーリスト」に表示されないことを確認します。

